

(3)大学入学選抜改革に関する資料

大学入学者選抜の現状

AO入試、推薦入試、一般入試の区分について

○ AO入試 (概要)

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

- ① 入学志願者自らの意思で出願する公募制。
- ② 知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準としない。
- ③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のいずれかを用いることが必要。
 - ア 各大学が実施する検査（筆記、実技、口頭試問等）の成績
 - イ 大学入試センター試験の成績
 - ウ 資格・検定試験等の成績
 - エ 高等学校の教科の評定平均値
- ④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

(時期)

- ・ 出願期間は8月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～。

○ 推薦入試 (概要)

出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

- ① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い、その旨を募集要項に明記する。
- ② 推薦書・調査書だけでは、入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合には、AO入試の③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。

※ 募集人員は、学部等募集単位ごとの入学定員の5割を超えない範囲で定める。

(時期)

- ・ 出願期間は11月1日～。
- ・ 学力検査を行う場合の試験期日は2月1日～。

○ 一般入試 (概要)

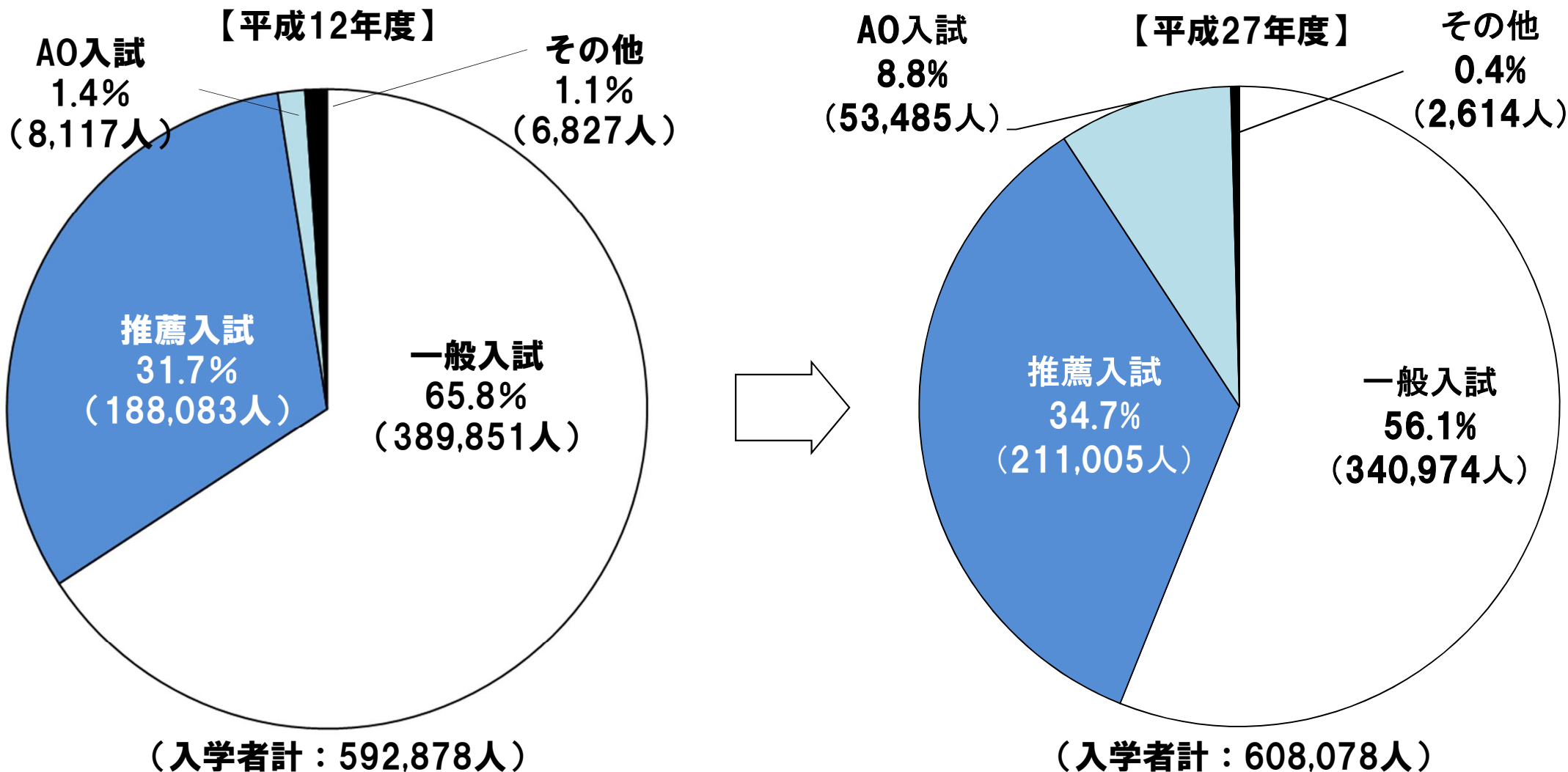
調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法。

(時期)

- ・ 試験期日は2月1日～4月15日

平成27年度入学者選抜実施状況の概要（平成12年との比較）

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、AO入試、推薦入試を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



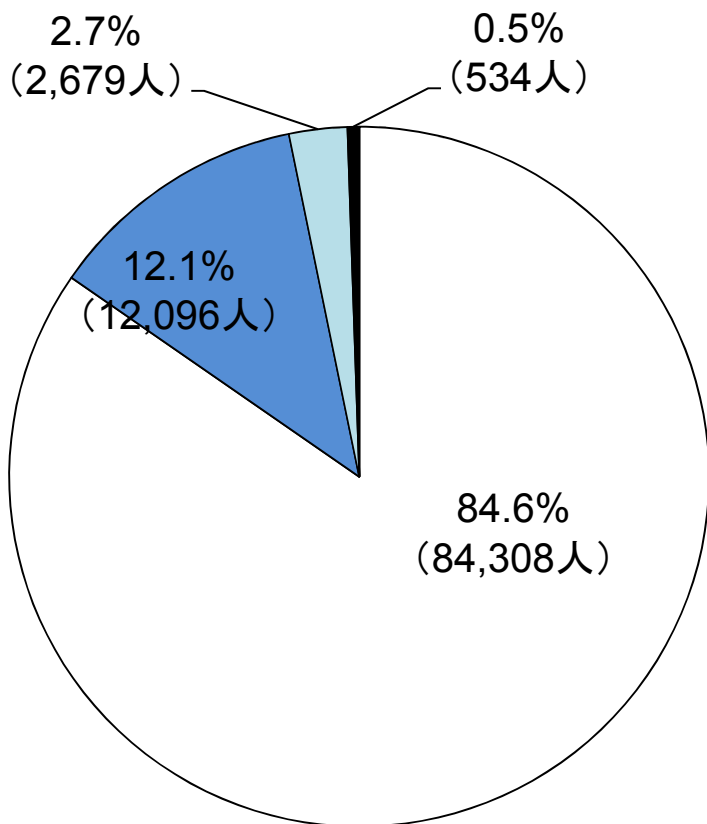
一般入試
 推薦入試
 アドミッション・オフィス入試
 その他
 (注)「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

平成27年度入学者選抜実施状況の概要（国公立別）

国公立大学では一般選抜が中心

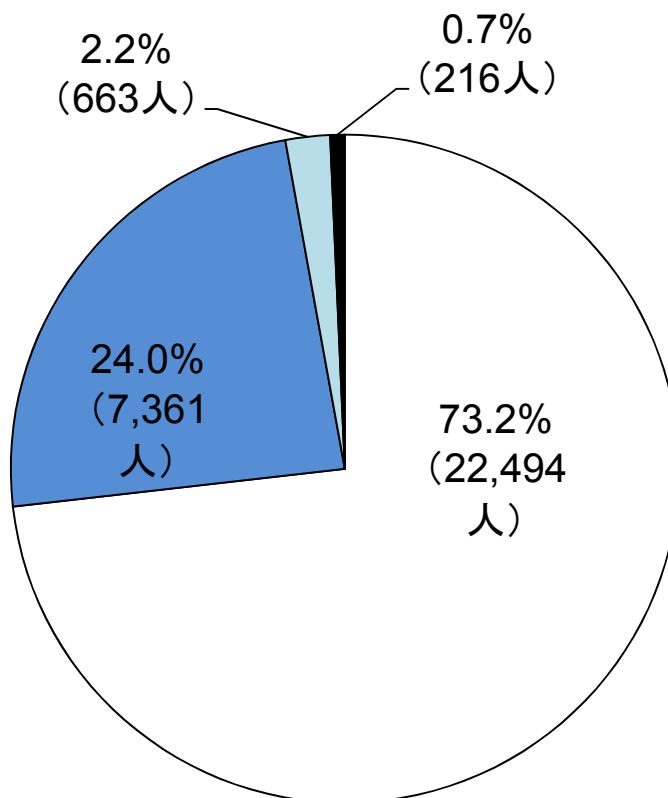
私立では約半数がAO入試、推薦入試を経由して入学している

【国立大学】



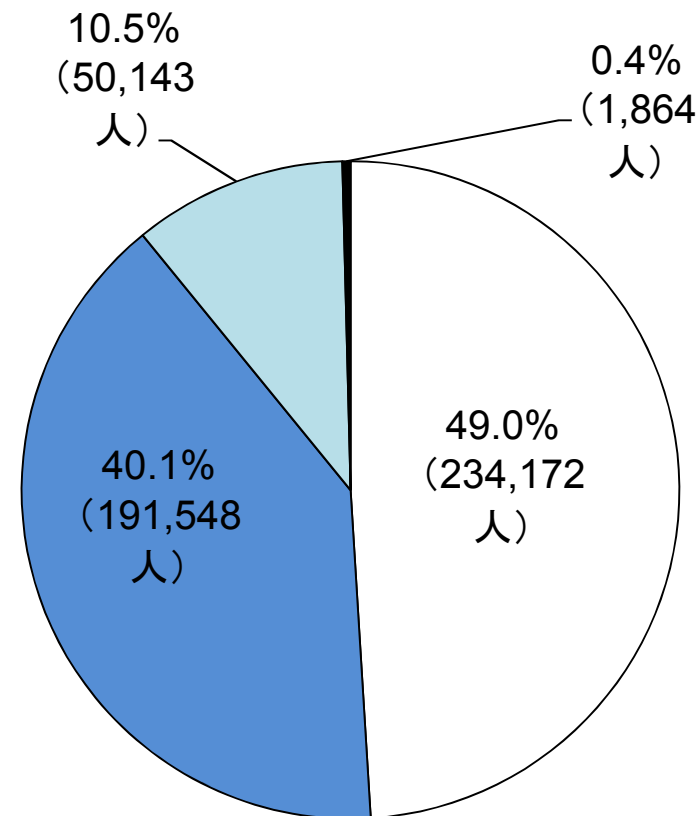
（入学者計：99,617人）

【公立大学】



（入学者計：30,734人）

【私立大学】



（入学者計：477,727人）

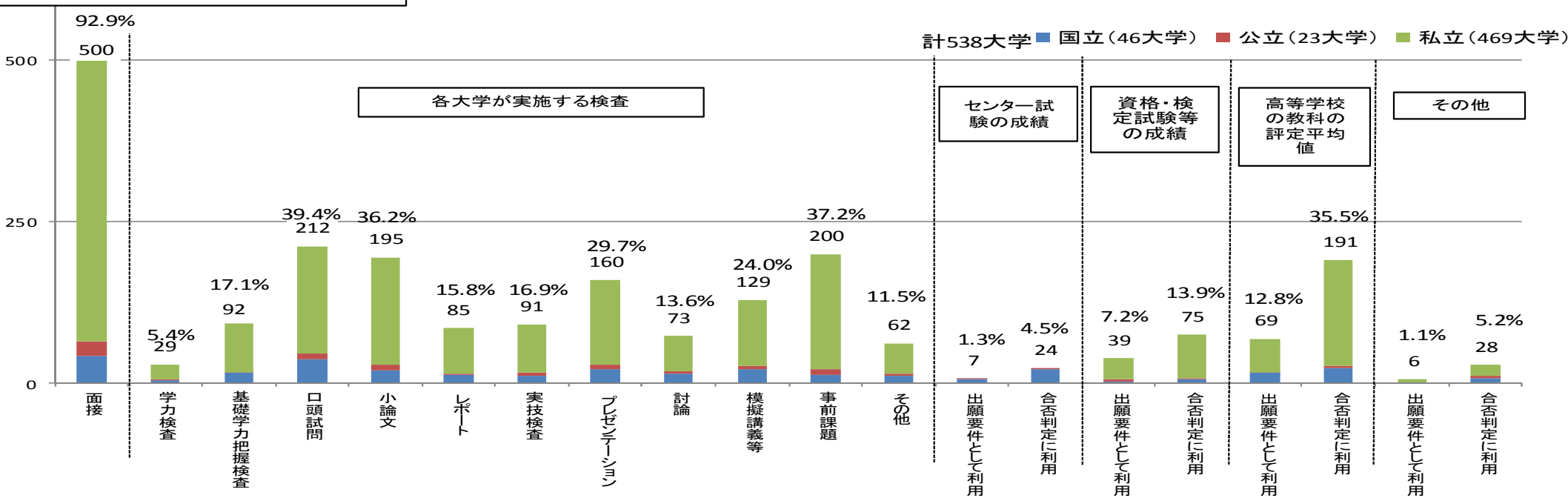
□ 一般入試 ■ 推薦入試 ■ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

AO入試の実施状況について（平成26年度入試）

AO入試：詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学修に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。

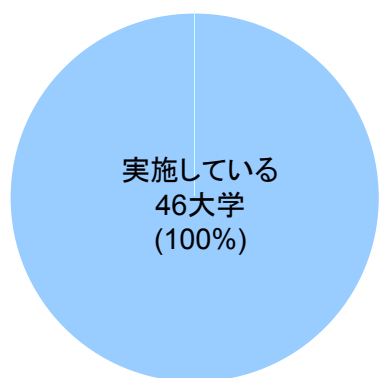
AO入試の選抜方法について(大学数)

Q. AO入試で実施している選抜方法について

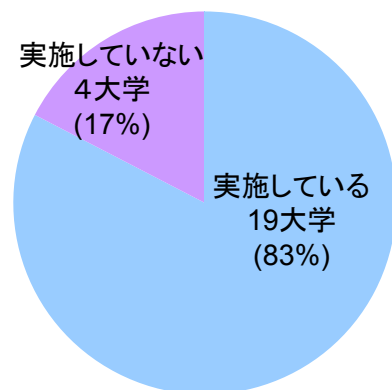


学力把握措置の実施(大学数)

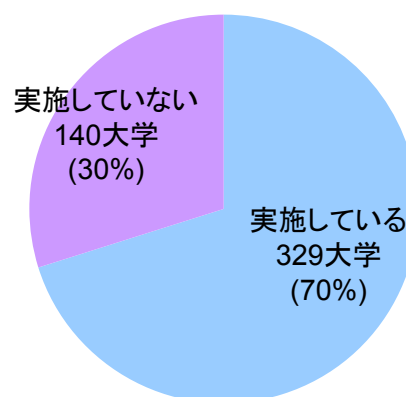
Q. 上記の選抜方法(「面接」以外)のうち、いずれかで学力把握措置を実施しているか。



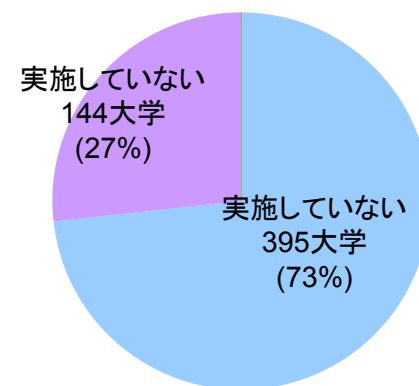
国立大学



公立大学



私立大学



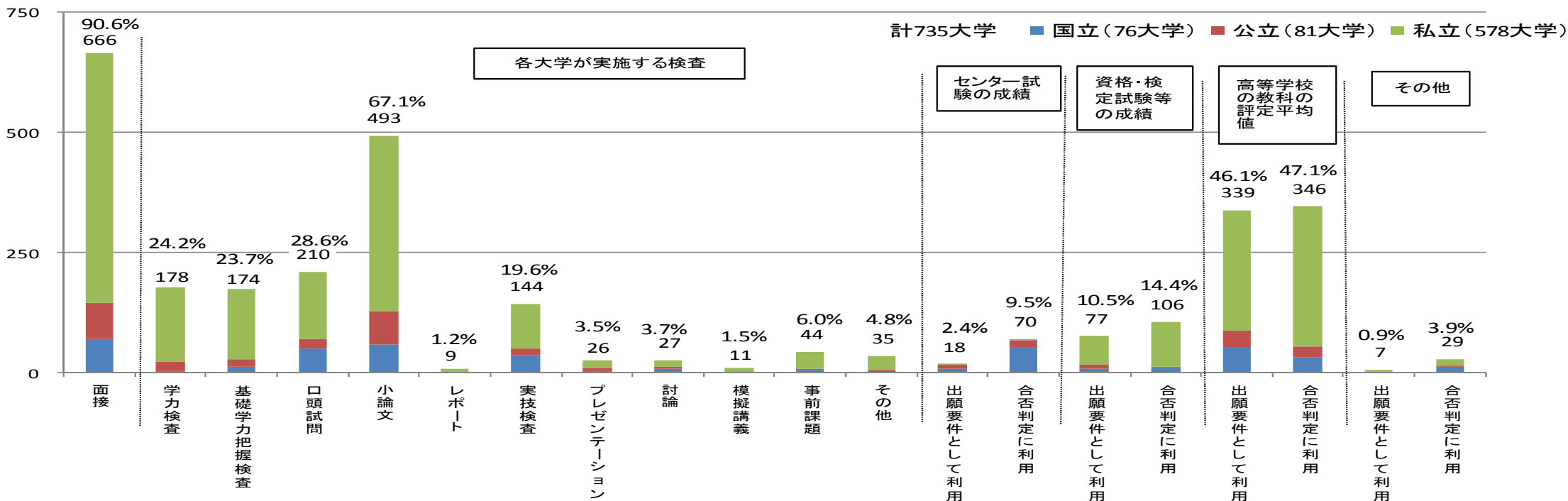
計

推薦入試の実施状況について（平成26年度入試）

推薦入試：出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法。

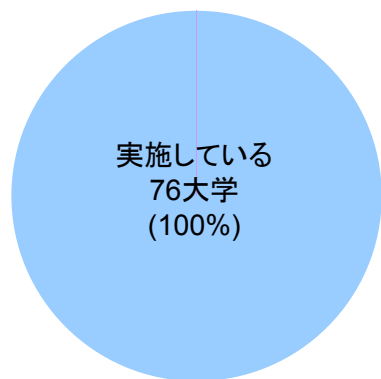
推薦入試の選抜方法について(大学数)

Q. 推薦入試で実施している選抜方法について

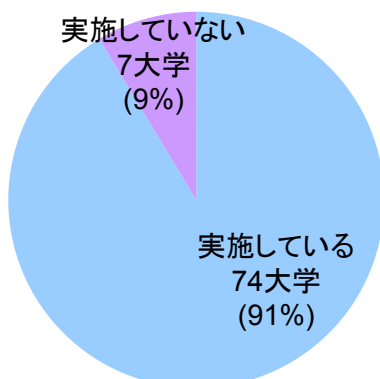


学力把握措置の実施(大学数)

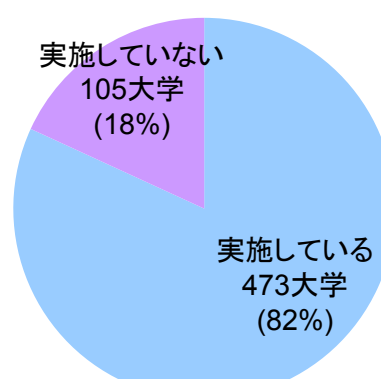
Q. 上記の選抜方法(「面接」以外)のうち、いずれかで学力把握措置を実施しているか



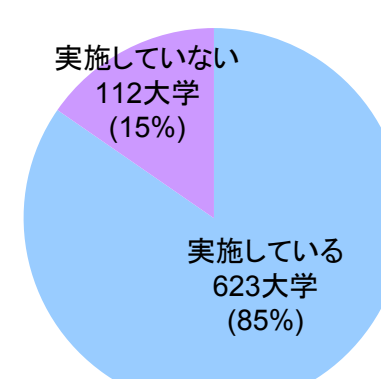
国立大学



公立大学



私立大学

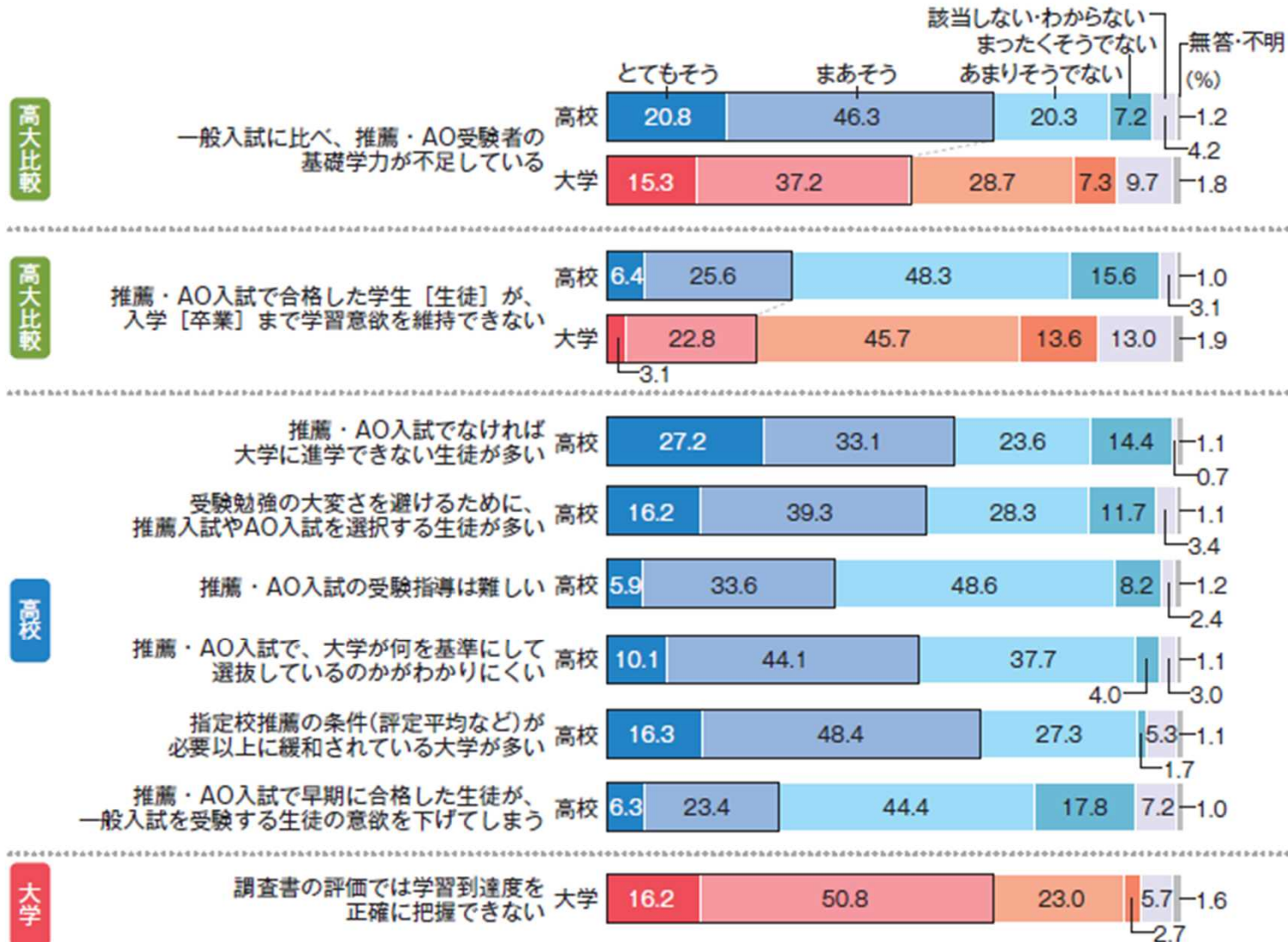


計

推薦・AO入試に関する調査結果

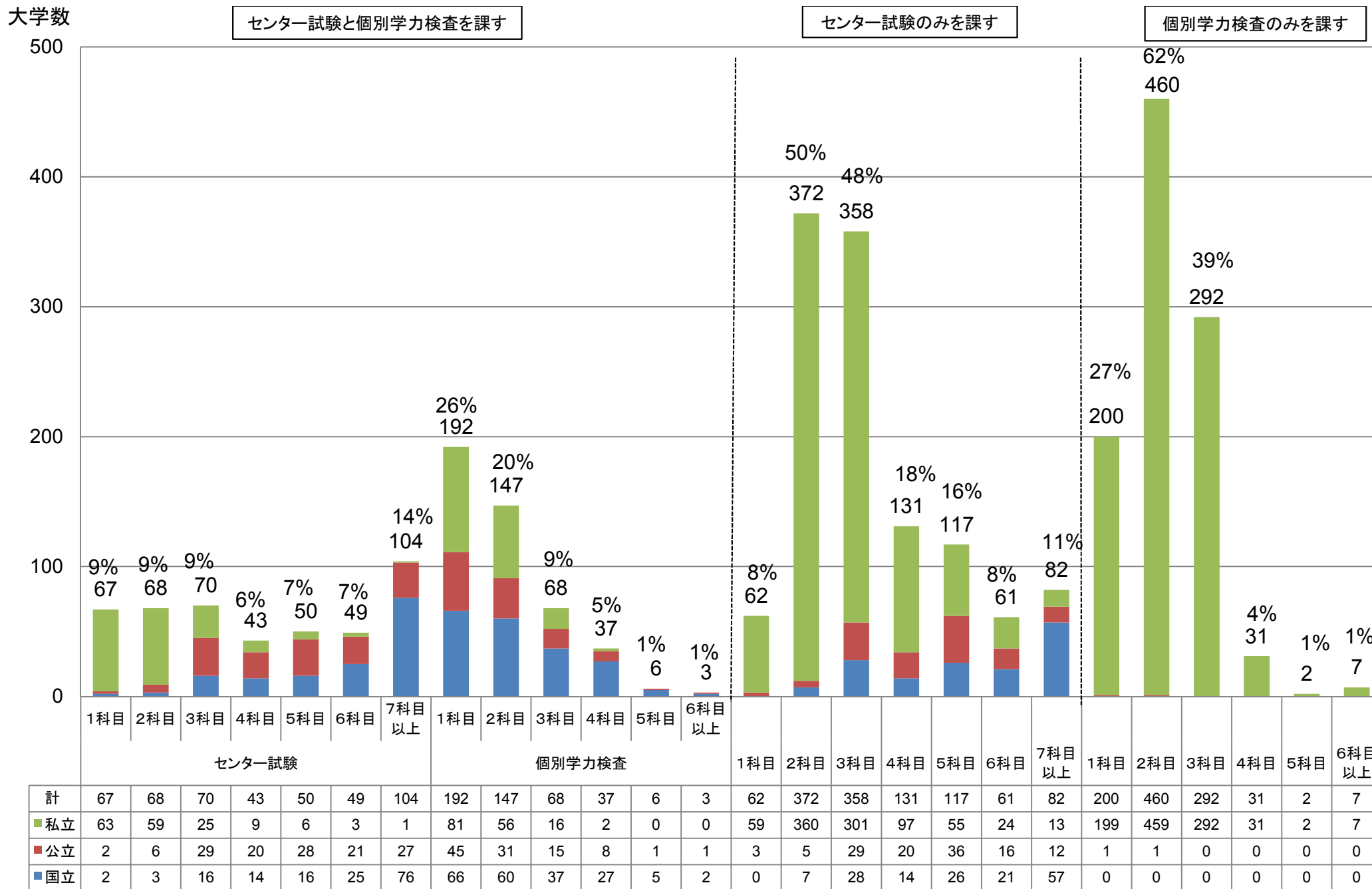
ベネッセの調査によると、一般入試に比べ、推薦・AO受験者の基礎学力が不足していると感じているのが高校、大学とも半数を超えている。

高校側では、推薦やAO入試でないと大学に進学できない学生が多いと感じていることや、推薦・AO入試では何を基準に選抜しているのかがわかりにくいといったことを感じている高校が半数以上あることが分かる。



一般入試における試験科目数について（平成26年度入試）

Q. 一般入試において、何科目で合否判定を行っているか（複数回答可）。



大学入学者選抜実施要項①

【大学入学者選抜の基本的な考え方】

大学がどのような選抜でどのような入学者を受け入れるかについては、各大学・学部等の入学者受入方針に基づき実施するものであり、各大学においては、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に判定するため、様々な取組みを実施。

文部科学省としても、大学入学者選抜を実施する上でのガイドラインとして、大学入学者選抜実施要項を毎年度、大学に通知し、入学者受入方針の明確化や選抜方法の多様化、評価尺度の多元化を推進。

○平成28年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第5 調査書

- 1 各大学は、入学者選抜の資料として、高等学校生徒指導要録に基づき、別紙様式により作成された調査書を提出させる。
(中略)
- 2 各大学は、入学者の選抜に当たって、調査書を十分に活用する。
- 3 各大学は、資格・検定試験の成績等のほか、弁論大会やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験等を入学者選抜に用いる場合は、大学で評価する内容を、どのように調査書へ盛り込むのかといった記載方法等について募集要項にできる限り具体的に記載する。
- 4 各大学は、高等学校長に対し、調査書の学習成績概評がAに属する生徒のうち、人物、学力ともに特に優秀な者については「学習成績概評」の欄に「**A**」と標示するよう希望することができる。この場合には「備考」欄にその理由を明示させる。
- 5 各大学は、高等学校長に対し、当該大学の学部等が求める能力・適性等について、高等学校長が特に推薦できる生徒については、その旨を調査書の「備考」の欄に記入するよう希望することができる。(略)

大学入学者選抜実施要項②

○平成28年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第6 学力検査等

4 資格・検定試験等の成績の活用

- (1) 入学志願者の能力・適性や学習の成果、活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から、例えば、以下のとおり、学部等の特性及び必要に応じ信頼性の高い資格・検定試験等の活用を図ることが望ましい。
- ① 入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について」(平成27年3月31日付け26文科初第1495号文部科学省初等中等教育局長・文部科学省高等教育局長通知)を踏まえ、実用英語技能検定(英検)やTOEFL等、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を測ることができる資格・検定試験等の結果を活用する。
 - ② 入学志願者の優れた理数系の能力を適切に評価する観点から、国際科学オリンピック等の結果を活用する。
 - ③ 基礎的・基本的な知識・技能に加え、「主体的に学び考える力」を育成する上で有益なプログラムとして国際的に評価されている国際バカロレアの資格や成績を活用する。
- (2) 資格・検定試験等の成績の活用に際しては、下記第7の学力検査実施教科・科目及び試験方法等の発表の際にその旨を明らかにするとともに、具体的な活用方法(例えば、個別試験の成績に代えて当該試験等の結果を用いる場合における得点の換算方法等)を明らかにする。また、当該試験の結果の確認方法等について事前に実施機関に確認しておく。

第13 その他注意事項

2 入試情報の取扱い

(1)(2)(略)

- (3) 合格者の氏名や住所、調査書に記載された内容等、各大学が選抜を通じて取得した個人情報については、入学者選抜並びに必要な応じ入学後の学籍管理、学習指導及び学生支援関係業務において利用するものとし、外部への漏洩や目的外の利用等がないよう、その保護に十分留意しつつ、適性な取扱いに努める。

大学入学者選抜実施要項③

主な入試方法は以下のとおり。

(1) 一般入試

調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する方法。

(2) アドミッション・オフィス入試(AO入試)

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

①②(略)

③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のア～エのうち少なくとも一つを行い、その旨を募集要項に明記する。

ア 各大学が実施する検査(筆記、実技、口頭試問等)による検査の成績を合否判定に用いる。

イ 大学入試センター試験の成績を出願要件(出願の目安)や合否判定に用いる。

ウ 資格・検定試験等の成績等を出願要件(出願の目安)や合否判定に用いる。

エ 高等学校の教科の評定平均値を出願要件(出願の目安)や合否判定に用いる。

④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

(3) 推薦入試

出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する方法。

この方法による場合は、以下の点に留意する。

① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件(出願の目安)や合否判定に用い、その旨を募集要項に明記する。

② 推薦書・調査書だけでは入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合には、AO入試の③ア～ウの措置を少なくとも一つを講ずることが望ましい。

大学入学者選抜における調査書について

調査書とは

- 各大学の入学者選抜の資料として、高等学校生徒指導要録に基づき、高等学校長が作成。
- 大学入学者選抜実施要項において共通様式を定めている。

調査書における記載内容(主なポイント)

1. 高等学校生徒指導要録との主な共通事項

- ①生徒氏名等
- ②入学、編入学、転入学、卒業(見込)時期
- ③各教科・科目の評定、各教科・科目等の修得単位数
- ④総合的な学習の時間の内容・評価
- ⑤特別活動の記録
- ⑥指導上参考となる諸事項
- ⑦出欠の記録 など

指導要録の記載事項のうち、平成23年度要項より以下の事項について記載欄を設定。
(1)学習における特徴等
(2)行動の特徴、特技等
(3)部活動、ボランティア活動等
(4)取得資格、検定等
(5)その他

2. 調査書独自の記載事項

①評定平均値

$$\text{「各教科の評定平均値」} = \frac{\text{当該教科の評定の合計数}}{\text{当該教科の評定数}}$$

$$\text{「全体の評定平均値」} = \frac{\text{全ての教科・科目の評定の合計数}}{\text{全ての評定数}}$$

②学習成績概評・成績段階別人数

- 同一学年生徒全員の3か年間における全体の評定平均値を、右の区分に従ってA～Eの5段階に分け、その生徒の属する成績段階を記載。
- 成績段階別人数は、各段階に属する人数とその合計を以下のように記載。
「A〇〇人、B〇〇人、C〇〇人、D〇〇人、E〇〇人、合計〇〇人」

| 全体の評定平均値 | 学習成績概評 |
|----------|--------|
| 5.0～4.3 | A |
| 4.2～3.5 | B |
| 3.4～2.7 | C |
| 2.6～1.9 | D |
| 1.8以下 | E |

各大学における個別選抜改革等

国立大学における個別入学者選抜改革の進展

- 国立大学では、第三期中期目標期間に開始・実行する取組として、「優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入れ環境の整備」を掲げている。

「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」

(平成27年9月14日：一般社団法人国立大学協会) (抜粋)

ポイント1：優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

- 確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。
(例) 大学は、多面的・総合的な評価を含み、個々の大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに沿って学修をすすめることができる者を選抜できるように入試改革を推進するとともに、推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の導入を拡大する。

【国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表】

【ポイント1】
優れた資質・能力を有する多様な入学者の確保と受入環境の整備

確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる。

個々の大学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの確認、整備 (※～28年度)

高大接続改革を先導する大学教育改革：
教養課程を含む入試改革後のためのカリキュラム整備 (人社系を最大限に活用しつつ) (※～平成30年度)

入試改革：
推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大 (入学定員の30%を目標) 個別入試における面接、調査書の活用等 (準備から実施へ) (※～平成33年度)

国立大学における個別入学者選抜改革の進展

○教育再生実行会議第四次提言（H25.10）以降、各大学は積極的に入学者選抜改革に取り組んでいる。

東京大学「推薦入試」の導入など

平成28年度入試から、**全学部**において「**推薦入試**」を導入。（1高校：男女各1人）

募集人員（合計100人程度）

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 法学部 | 10人程度 | 経済学部 | 10人程度 |
| 文学部 | 10人程度 | 教育学部 | 5人程度 |
| 教養学部 | 5人程度 | 工学部 | 30人程度 |
| 理学部 | 10人程度 | 農学部 | 10人程度 |
| 薬学部 | 5人程度 | | |
| 医学部 | 5人程度 | | |

（うち、医学科3人程度、健康総合科学科2人程度）

平成30年度入試から、一般入試理科三類で面接試験を導入

京都大学「特色入試」の導入・拡大

平成29年度入試から、学部に応じ、**学力型AO入試又は推薦入試等**による選抜を行う「**特色入試**」（平成28年度入試から導入）について、**募集人員を拡大（36人増）**。

【平成28年度「特色入試」】

| | |
|--------|------|
| 総合人間学部 | 5名 |
| 文学部 | 10名 |
| 法学部 | 20名 |
| 理学部 | 5名 |
| 薬学部 | 3名 |
| 農学部 | 3名 |
| 教育学部 | 6名 |
| 経済学部 | 25名 |
| 医学部 | 21名 |
| 工学部 | 10名 |
| 計 | 108名 |

【平成29年度「特色入試」】

| | |
|--------|------|
| 総合人間学部 | 5名 |
| 文学部 | 10名 |
| 法学部 | 20名 |
| 理学部 | 5名 |
| 薬学部 | 3名 |
| 農学部 | 18名 |
| 教育学部 | 6名 |
| 経済学部 | 25名 |
| 医学部 | 35名 |
| 工学部 | 17名 |
| 計 | 144名 |

※平成30年度入試からは、全学部全学科で「特色入試」を導入予定

大阪大学「世界適塾入試」の導入・拡大

平成29年度入試から、**AO入試、推薦入試、国際科学オリンピック入試**による選抜を総称した「**世界適塾入試**」を導入・拡大予定。

【平成29年度入試】

世界適塾入試 270人

一般入試 2,968人

【平成31年度入試】

世界適塾入試 354人

一般入試 2,884人

東北大学「AO入試」の拡大

平成28年度入試から、4学部（経済・医・薬・工）で**AO入試を拡大（41人増）**。目標として、数年かけてAO入試の規模を現行の**18%→30%**に。

【平成27年度入試】

| | |
|---------|------|
| 経済学部 | 40名 |
| 医学部保健学科 | 25名 |
| 薬学部 | 15名 |
| 工学部 | 219名 |

【平成28年度入試】

| | |
|---------|------|
| 経済学部 | 45名 |
| 医学部保健学科 | 32名 |
| 薬学部 | 20名 |
| 工学部 | 243名 |

※平成29年度入試から、文・法・理・医（医学科）・工・農の各学部で「国際バカロレア入試」も導入予定。

国立大学における個別入学者選抜改革の進展

筑波大学「4技能外部英語検定試験」の導入

平成30年度入試（医学類は、平成29年度入試）から、**推薦入試に4技能外部英語検定試験を導入。**

⇒B1(CEFR)相当（医学類は、C1相当以上）※以上のスコアを有する場合に総合評価に反映。【参考：推薦入試規模532名（平成28年度入試）】

※B1(CEFR)は、「自立した言語使用者」と位置付けられるレベル（英検2級(1780-2250)、GTEC-CBT(1000-1249)、IELTS(4.0-5.0)、TEAP(226-333)、TOEFL-IBT(42-71)など）

個別学力検査には平成31年度入試を目途に全学導入予定。

岡山大学「国際バカロレア入試」の導入

平成27年度入試から、**全学部で「国際バカロレア入試」を導入。**平成30年度の目標値として、国際バカロレア入試によるものも含め、**多面的・総合的入試の募集人員比率を20%→30%に。**

【～26年度入試】

【27年度入試】

理学部・医学部（医学科除く）
工学部・環境理工学部、農学部、マッチング・プログラム



全学部
（教育学部、法学部、経済学部、医学部医学科、歯学部、薬学部が新たに参加）

お茶の水女子大学「新フンボルト入試」の導入

平成29年度入試から、**現行のAO入試をより丁寧な選抜方法に見直すとともに、募集人員を拡大。**

【従来のAO入試】

【新フンボルト入試】

第2次選考（2日間）

第2次選考（2日間）
日本語・英語の模擬講義→レポート・小論文作成+グループ討論・面接

第1次選考：書類審査
志望理由書、活動報告書等

図書館入試 **実験室入試**
資料を自由に使ってじっくりレポート作成+グループ討論・面接
①実験・実験演示・データ分析
②自主研究課題ポスター発表

プレゼミナール（2日間）
大学の学問世界を実体験・ミニレポート・提出書類等で総合的に一次選考

四国地区国立大学連合

（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）

平成25年5月、「**四国地区国立大学連合アドミッションセンター**」を設置。

平成28年度入試から、**共同インターネット出願サイトを開設（平成28年1月公開）し、出願受付（一般入試）を開始。**翌年度以降、**推薦・AOへも拡大。**

共通の「活動報告書」を利用するなど、「**学力の3要素を踏まえた選抜を順次拡大。**」

国立大学における個別入学者選抜改革の進展

東京医科歯科大学・東京外国語大学の共同入試

文系・理系双方の資質を備えた学生を選抜・育成するため

平成31年度入試から、**推薦入試などの面接試験における教員の相互派遣**を導入。

平成33年度入試から、**共同作成した文理融合問題**を活用。

金沢大学「文系一括、理系一括」入試等の導入

平成29年度入試から、**全学域で「国際バカロレア入試」(若干名)を導入**。(ただし、医学類を除く)

平成30年度入試から、**一般入試(後期日程)で、「文系一括、理系一括」入試(文系60名程度、理系60名程度)を実施**。

※学類への配属時期は、1年終了時(2年次から学類に所属)とし、本人の希望、入学後の成績等に基づき個別指導を通して所属学類を決定

佐賀大学「佐賀大学版CBT」「特色加点」の開発

多面的・総合的に評価する**新しい評価・判定方法を全学部**で導入

・ペーパーテストでは技術的に測定が難しい「思考力・判断力・表現力」をデジタル技術を活用して評価する**「佐賀大学版CBT」の開発・実施**

・「主体性・多様性・協働性」の観点から志願者の活動・実績等をアドミッション・ポリシーに応じて評価する**「特色加点」(※)制度の構築・実施**

※志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで可否判定。志願者が取り組んできた様々な実績や活動等を申請対象とする。

鹿児島大学「外部英語試験」の全学導入

平成29年度入試から、**全9学部の一般入試、推薦入試に4技能外部英語検定試験を導入(入学定員の約94%で実施)**。

⇒B2(CEFR)相当以上のスコアを有する受験生の大学入試センター試験「外国語」得点を満点とみなす。【希望者対象】

【実施学部】全学部

法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部、共同獣医学部

【対象とする外部英語試験】

Cambridge English(FCE以上)、英検(準1級)、GTEC CBT(1250点以上)、IELTS(5.5以上)、TEAP(334点以上)、TOEFLiBT(72点以上)、TOEFL Junior Comprehensive(341点以上)、TOEIC/TOEIC S&W(1095点以上(L&R 785点以上;S&W 310点以上))

私立大学における個別入学者選抜改革の進展

早稲田大学 入試改革の方向性と展開

平成25年度に「入試開発オフィス」及び「入試開発検討会」を設置。さらに、翌年(平成26年)4月には「入学者選抜オフィス」を設置し、改革に向けた体制構築を行う。

平成29年度入試から、文化構想学部(70名)、文学部(50名)で「**一般入試(英語4技能テスト利用型)**」を導入。また、人間科学部で、科学への関心と思考力・論理性・論述力・表現力を重視する「**公募制学校推薦入試(FACT選抜)**」を導入。

平成30年度入試から、地域への貢献に高い志を持つ人材を対象とした「**新思考入試(地域連携型)**」を導入。学力型AO入試として全学的に実施予定。

上智大学「TEAP利用入試」の展開

平成27年度から導入されている、上智大学と日本英語検定協会が共同開発した「**アカデミック英語能力判定試験(TEAP)**」を利用する入試。

⇒TEAPのスコアが基準点に達していれば出願可能。大学が実施する個別試験においては英語科目は課さない。

基準点の例: 法学部 国際関係法学科 260点
外国語学部 英語学科 300点

平成28年度入試から、一部学科において**4技能のスコアを利用**。

平成29年度入試から、すべての学部学科において**4技能のスコアを利用**。

関西学院大学「高大接続センター」の設置

平成27年度に「**高大接続センター**」を設置。
平成28年度入試から高大連携・入試改革の取組を実施。

【SGH、SSH等公募推薦入試】

SGH、SSHなどの高等学校における知識・技能の活用を図る課題研究の取り組みを多面的・総合的に評価する入学試験を実施。

【英語外部検定試験の活用】

全学部で、英語外部検定試験のCEFRのB2レベルを出願資格とし、各学部が指定するセンター試験の英語以外の科目の得点をもって合否判定。

追手門学院大学「アサーティブ入試」の拡大

平成26年度から、学ぶ意欲と姿勢を持った受験生に入学を許可することを目的とし、受験前から「学ぶことについて考える」及び「アイデンティティの形成」の機会となるアサーティブプログラムとその成果を発揮できるアサーティブ入試を導入。

アサーティブプログラム

- ガイダンス
- 個別面談
- インターネットを利用した学習プログラム
- 振り返りを促すアサーティブノート

アサーティブ入試

一次試験: グループディスカッション
基礎学力適性検査

二次試験: 面接

入学前学習

平成30年度までに、アサーティブ入試入学者割合を**3割(目標値)**に拡大。

一般入試において面接、小論文等を課す国公立大学(平成28年度入試)

| 区 分 | 平成28年度 | | | | | |
|--------------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 国 立 | | 公 立 | | 計 | |
| 入学者選抜の実施 大学・学部数 《 募集人員 》 | 大学 82 《 95,760 》 | 学部 395 《 95,760 》 | 大学 84 《 28,993 》 | 学部 180 《 28,993 》 | 大学 166 《 124,753 》 | 学部 575 《 124,753 》 |
| 小 論 文 | 65 (79.3) | 178 (45.1) | 62 (73.8) | 95 (52.8) | 127 (76.5) | 273 (47.5) |
| 総 合 問 題 | 24 (29.3) | 40 (10.1) | 15 (17.9) | 18 (10.0) | 39 (23.5) | 58 (10.1) |
| 面 接 | 67 (81.7) | 176 (44.6) | 58 (69.0) | 83 (46.1) | 125 (75.3) | 259 (45.0) |
| 実 技 検 査 | 53 (64.6) | 63 (15.9) | 17 (20.2) | 21 (11.7) | 70 (42.2) | 84 (14.6) |
| リ ス ニ ン グ | 10 (12.2) | 19 (4.8) | 3 (3.6) | 4 (2.2) | 13 (7.8) | 23 (4.0) |

- (注)
1. 本表は、平成27年度7月末現在で集計したものである。(設置認可申請中等の予定のものを含む。)
 2. 学部内の募集単位により選抜方法が異なる場合には、それぞれの箇所に計上している。
 3. () 書きは、入学者選抜実施大学・学部数に対する割合を示す
 4. 募集人員に外国人留学生を対象とする選抜分は含まない。

1. 徳島大学 生物資源産業学部（推薦入試）

出願要件:「理科」の評定平均値が4.0以上の者

評価方法:第一次選考及び第二次選考の結果を総合して判定

第一次選考(調査書100点、志望動機100点、学びの設計書100点、大学入試センター試験
300点 計600点)

第二次選考(集団討論200点、集団面接200点 計400点)

2. 愛媛大学 社会共創学部産業イノベーション学科（AO入試）

出願要件:評定による要件はなし

評価方法:総合問題(200点)、グループディスカッション(100点)、面接(100点)、提出書類(100点)

提出書類は、活動報告書、志望理由書、調査書を評価

3. 佐賀大学 医学部（一般入試）

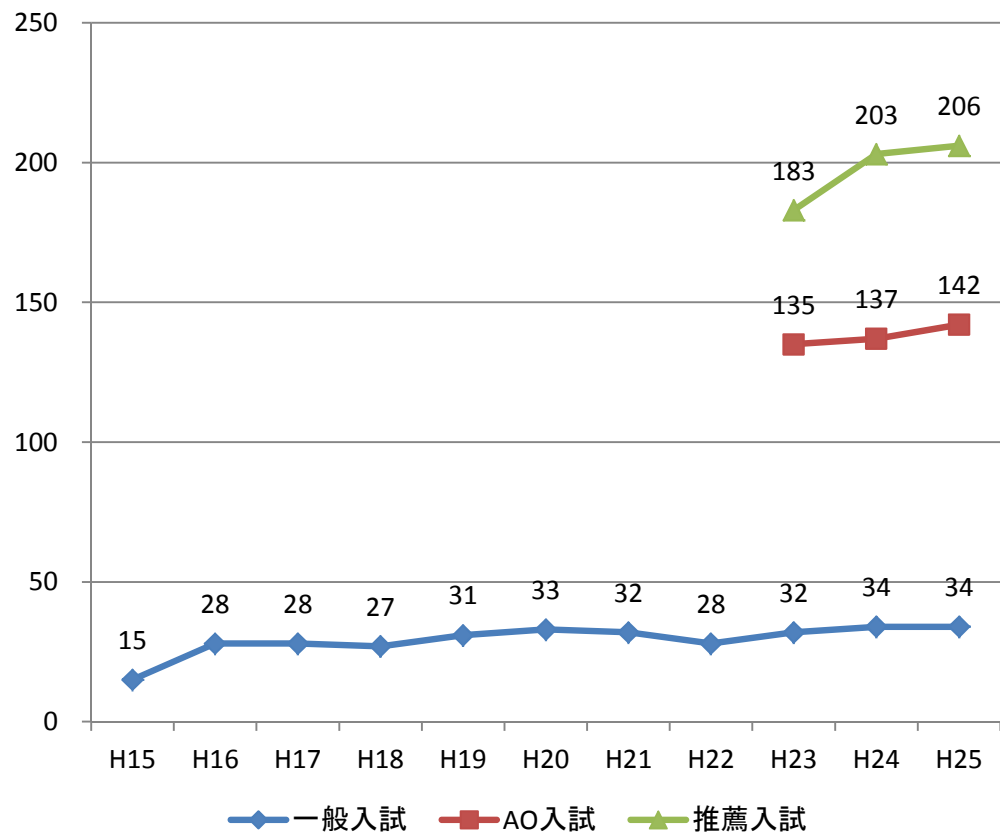
出願要件:評定による要件はなし

評価方法:センター試験の成績(5教科7科目 計630点)、個別試験(3教科 240点)、面接(60点)、

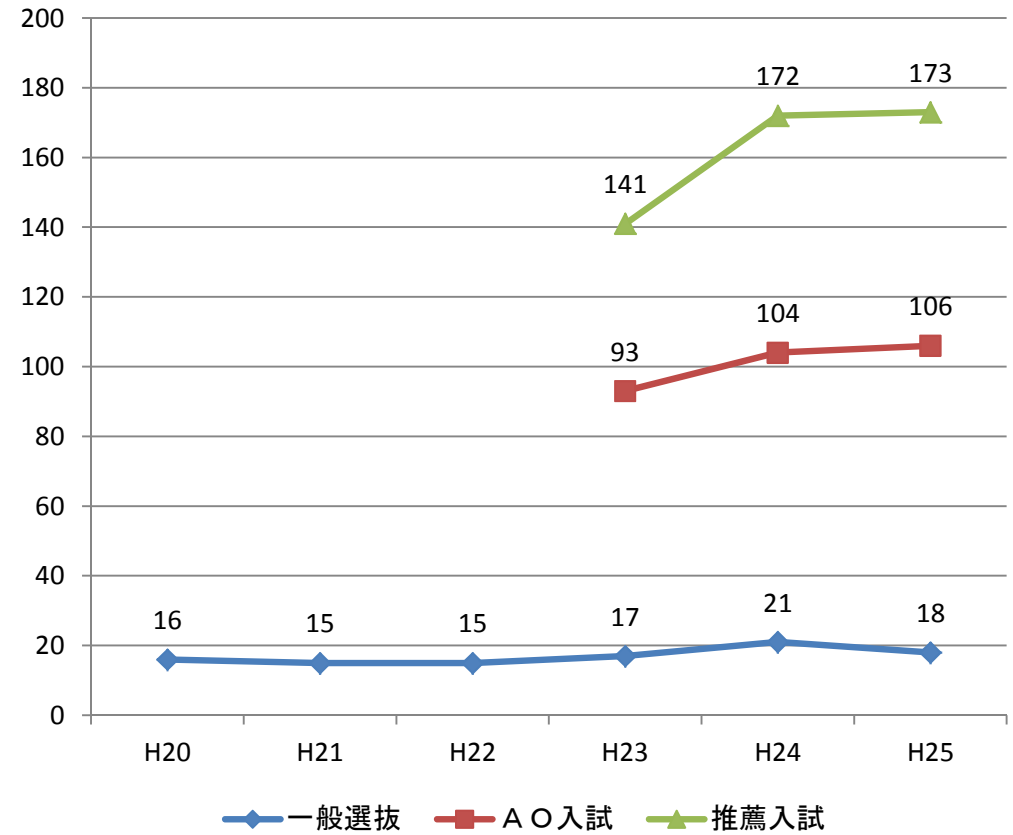
調査書(100点)を総合的に判定

大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用状況(推移)

<語学関連>
(大学数)



<語学以外>
(大学数)



文部科学省大学入試室調べ

アドミッション・ポリシーの作成状況(平成24年度入試)

○入学者受入方針の策定の状況

| 区分 | | 入学者受入方針を定めている大学数 | | |
|----|----|--------------------------|------------|--------------|
| | | 学部ごとの入学者受入方針を定めている大学・学部数 | | |
| | | 大学数 | 学部数 | |
| 大学 | 国立 | 82 (100.0) | 81 (98.8) | 375 (98.4) |
| | 公立 | 80 (100.0) | 80 (100.0) | 173 (100.0) |
| | 私立 | 579 (100.0) | 577 (99.7) | 1,618 (99.0) |
| | 計 | 741 (100.0) | 738 (99.6) | 2,166 (99.0) |

○入学者受入方針の明確化の状況

| 区分 | | 求める学生像だけでなく、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学数 |
|----|----|---|
| 大学 | 国立 | 58 (70.7) |
| | 公立 | 27 (33.8) |
| | 私立 | 231 (39.9) |
| | 計 | 316 (42.6) |

文部科学省大学入試室調べ

○学校教育法施行規則第七十二条の二(平成22年6月改正、平成23年4月施行)

大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 大学の教育研究上の目的に関する事
 - 二 教育研究上の基本組織に関する事
 - 三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事
 - 四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事
 - 五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事
 - 六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関する事
 - 七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事
 - 八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事
 - 九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事
- 2 大学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。
 - 3 第一項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつて行うものとする。

大学入試センター試験

平成28年度大学入学者選抜日程

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|

A O 入 試

推 薦 入 試

国 公 立 大 学

私 立 大 学

「大学入学者選抜実施要項」を各大学に通知(局長通知)

平成27年6月1日～7月31日
選抜要項の発表(各大学)

平成27年9月下旬～10月上旬
大学入試センター試験の出願受付

平成27年12月15日まで
募集要項の発表(各大学)

(追試 1月23・24日)
※1月22日 得点調整実施の有無の発表
平成28年1月16・17日
大学入試センター試験

平成28年1月25日～2月3日
出願受付

平成28年2月25日～
前期日程試験

(公立)平成28年3月1日～10日
(国立)平成28年3月6日～10日
前期日程の合格発表

(公立)平成28年3月8日～
中期日程試験

平成28年3月12日～
後期日程試験

(後期)平成28年3月20日～24日
(中期)平成28年3月20日～23日
中期・後期日程の合格発表

(各大学で独自に設定)
試 験
合 格 発 表

A O 入 試

推 薦 入 試

大学入試センター試験の概要

【目的】

大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として、大学が共同して実施。

【平成29年度大学入試センター試験】

<試験期日>

- ・本試験：平成29年1月14日(土)、15日(日)
 - ・追(再)試験：平成29年1月21日(土)、22日(日)
- ※試験は1/13日以降の最初の土日に実施

【平成28年度大学入試センター試験】

<志願者数、利用大学数等>

- ・志願者数：563, 768人
[対前年度+4, 636人]
 - ・試験場数：693試験場
[対前年度+3試験場]
 - ・利用大学数：693大学
[対前年度+3大学]
- 157短期大学
[対前年度▲3短期大学]
- (国公私別)
- | | | |
|----|---------|--------|
| 国立 | 82大学 | [100%] |
| 公立 | 84大学 | [100%] |
| 私立 | 527大学 | [91%] |
| 公立 | 15短期大学 | [94%] |
| 私立 | 142短期大学 | [45%] |

※参加大学数の割合の母数は、平成27年度入学者選抜を実施した大学数。

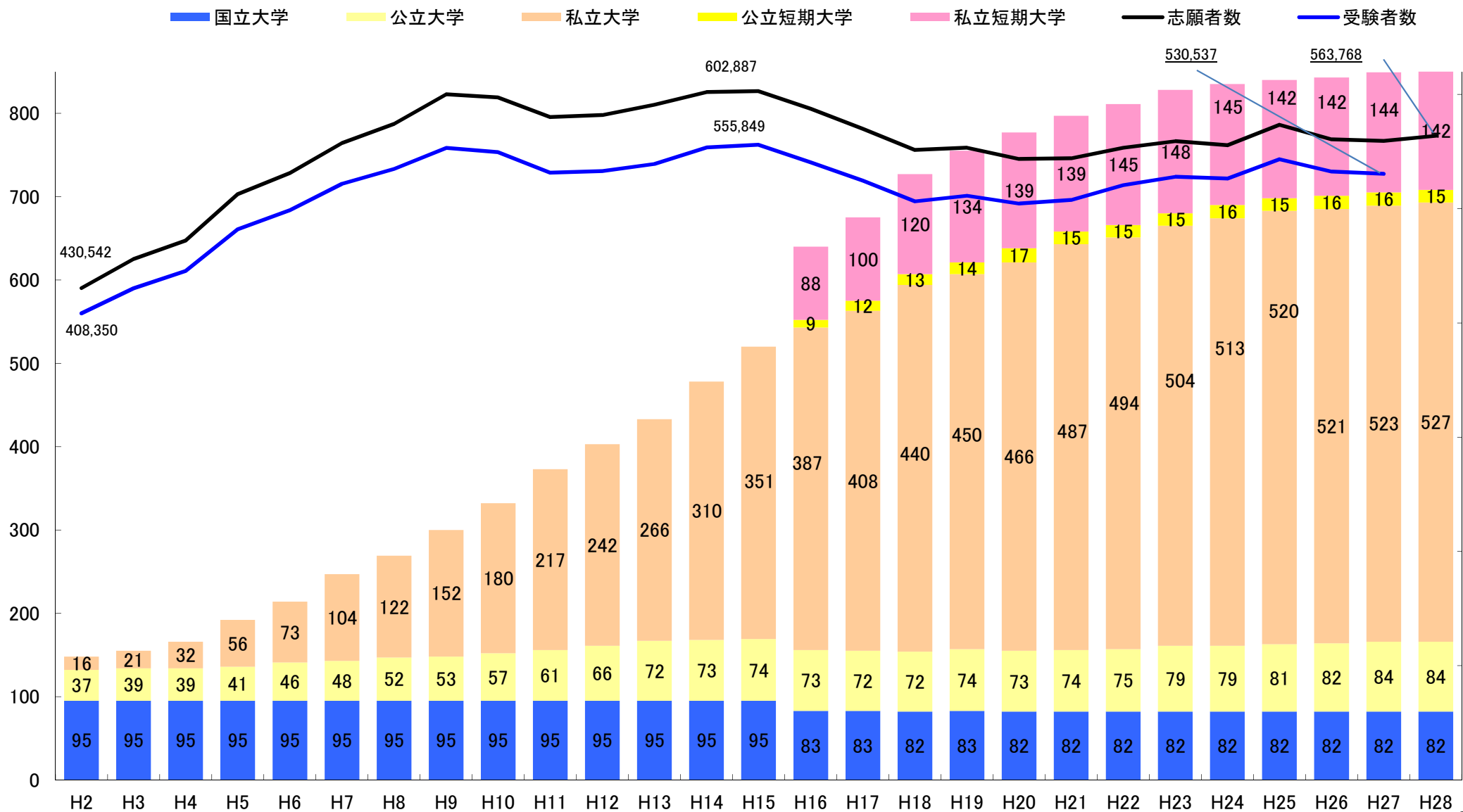
【平成28年度試験時間割】

※出題教科科目数 6教科31科目(第1回(平成2年) 5教科18科目)

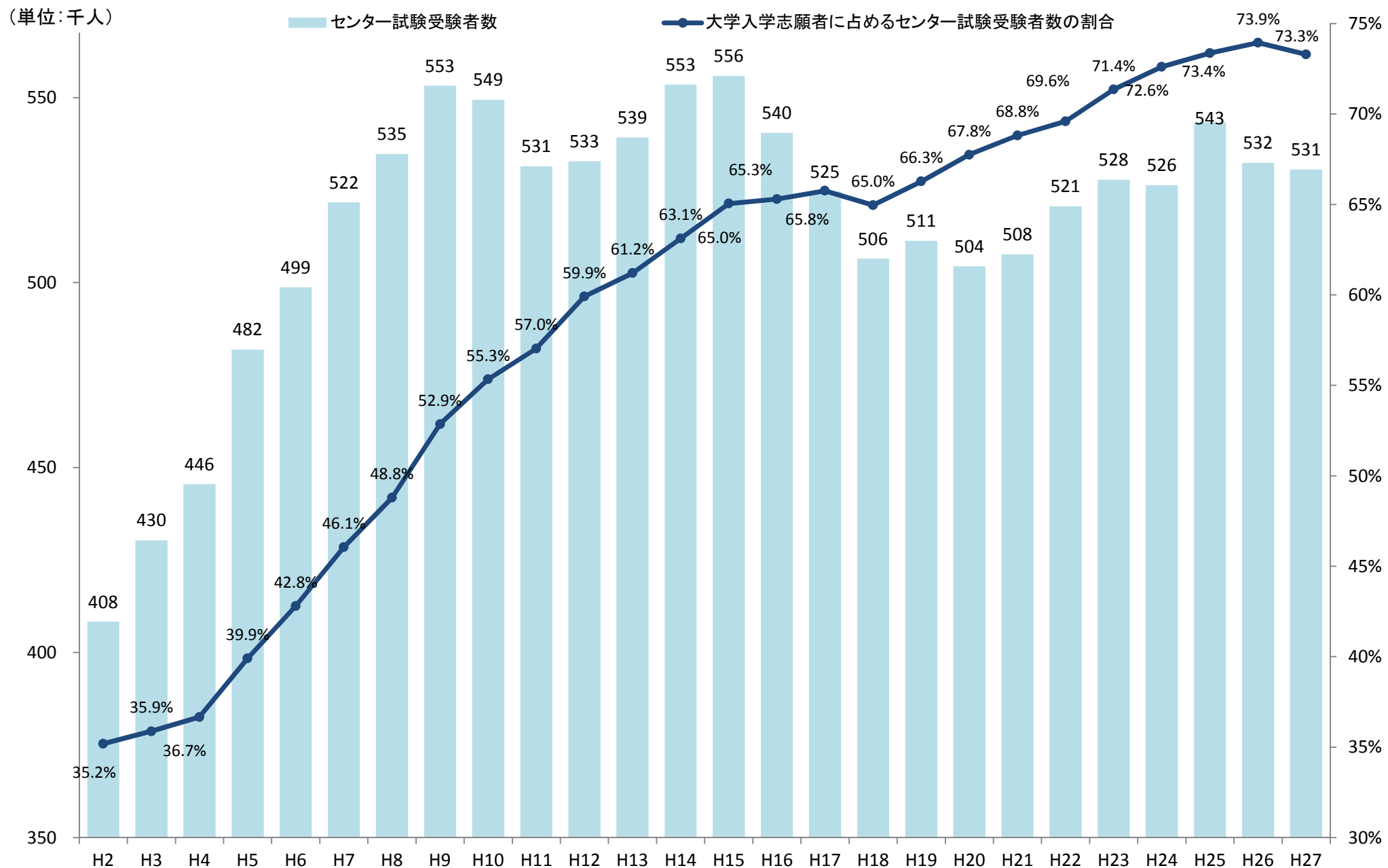
| 期 日 | 出題教科・科目 | | 試験時間 |
|-------------------|-------------|--|--|
| 平成28年 1月16日(土) | 地理歴史 公 民 | 「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」「倫理, 政治・経済」 | 2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40 |
| | | 国 語 | 「国語」 13:00~14:20 |
| | 外国語 | 「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」 | 【筆記】 15:10~16:30 ----- 【リスニング】 「英語」のみ 17:10~18:10 |
| 1月17日(日) | 理科① | 「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」 | 9:30~10:30 |
| | 数学① | 「数学I」「数学I・数学A」 | 11:20~12:20 |
| | 数学② | 「数学II」「数学II・数学B」 「簿記・会計」「情報関係基礎」 「工業数理基礎」 | 13:40~14:40 |
| | 理科② | 「物理」「化学」 「生物」「地学」 | 2科目受験 15:30~17:40 1科目受験 16:40~17:40 |

大学入試センター試験参加大学数及び志願者・受験者数の推移

- 平成2年度の第一回試験から平成28年度試験で27回目の実施(平成18年度試験から英語リスニングを実施し、平成28年度試験で11回目の実施)。
- 参加大学については、第一回から年々増加しており、平成28年度試験参加大学数は国公私合計850大学(うち157短期大学)。
- 志願者数については、平成15年度試験の602,887人がピーク。平成28年度試験の志願者数は563,768人(対前年4,636人増)。



センター試験受験者数と大学入学志願者に占めるセンター試験受験者数割合



平成28年度大学入試センター試験（本試験）科目別受験者数及び平均点について

受験者数 536,722人

| 教科名 | 科目名 | 受験者数 | 平均点 | 最高点 | 最低点 | 標準偏差 |
|----------------|-----------|---------|----------------|-----------|-------|---------------|
| 国語 (200点) | 国語 | 507,791 | 129.39 (64.69) | 200 (100) | 0 (0) | 36.01 (18.00) |
| | 世界史 A | 1,449 | 42.07 | 100 | 0 | 16.71 |
| 地理歴史 (100点) | 世界史 B | 84,131 | 67.25 | 100 | 0 | 20.31 |
| | 日本史 A | 2,472 | 40.81 | 97 | 0 | 16.91 |
| | 日本史 B | 160,830 | 65.55 | 100 | 0 | 18.99 |
| | 地理 A | 1,805 | 52.14 | 97 | 0 | 14.68 |
| | 地理 B | 147,929 | 60.10 | 100 | 0 | 14.11 |
| | 現代社会 | 80,240 | 54.53 | 100 | 0 | 16.60 |
| 公民 (100点) | 倫理 | 26,039 | 51.84 | 96 | 0 | 15.42 |
| | 政治・経済 | 49,184 | 59.97 | 100 | 0 | 16.48 |
| | 倫理, 政治・経済 | 48,709 | 60.50 | 100 | 0 | 15.71 |

| 教科名 | 科目名 | 受験者数 | 平均点 | 最高点 | 最低点 | 標準偏差 | | | |
|------------------|---------------|--------------|----------------|----------------|-----------|----------------|---------------|---------|---------------|
| 数 学 | 数学① (100点) | 数 学 I | 5,981 | 36.48 | 98 | 0 | 19.74 | | |
| | | 数学 I ・ 数学 A | 392,479 | 55.27 | 100 | 0 | 19.93 | | |
| | 数学② (100点) | 数 学 II | 5,782 | 27.76 | 100 | 0 | 16.46 | | |
| | | 数学 II ・ 数学 B | 353,423 | 47.92 | 100 | 0 | 22.25 | | |
| | | 工業数理基礎 | 1,401 | 57.71 | 98 | 6 | 18.11 | | |
| | | 簿記・会計 | 539 | 56.21 | 98 | 11 | 19.48 | | |
| 情報関係基礎 | 4 | 54.25 | 90 | 22 | 24.68 | | | | |
| 理 科 | 理科① (50点) | 物 理 基 礎 | 18,304 | 34.37 (68.74) | 50 (100) | 0 (0) | 10.27 (20.54) | | |
| | | 化 学 基 礎 | 105,937 | 26.77 (53.54) | 50 (100) | 0 (0) | 10.73 (21.46) | | |
| | | 生 物 基 礎 | 133,653 | 27.58 (55.16) | 50 (100) | 0 (0) | 9.24 (18.48) | | |
| | | 地 学 基 礎 | 47,092 | 33.90 (67.80) | 50 (100) | 0 (0) | 10.55 (21.10) | | |
| | 理科② (100点) | 物 理 | 155,739 | 61.70 | 100 | 0 | 23.64 | | |
| | | 化 学 | 211,676 | 54.48 | 100 | 0 | 20.94 | | |
| | | 生 物 | 77,389 | 63.62 | 100 | 0 | 18.82 | | |
| | | 地 学 | 2,126 | 38.64 | 100 | 0 | 15.77 | | |
| | | 外国語 | 【筆記】 (200点) | 英 語 | 529,688 | 112.43 (56.21) | 200 (100) | 0 (0) | 42.15 (21.07) |
| | | | | ド イ ツ 語 | 147 | 130.92 (65.46) | 197 (98) | 39 (19) | 42.14 (21.07) |
| フ ラ ン ス 語 | 140 | | | 151.04 (75.52) | 200 (100) | 40 (20) | 35.84 (17.92) | | |
| 中 国 語 | 482 | | | 158.02 (79.01) | 200 (100) | 29 (14) | 33.74 (16.87) | | |
| 韓 国 語 | 174 | | | 128.05 (64.02) | 196 (98) | 40 (20) | 43.18 (21.59) | | |
| 【リスニング】 (50点) | 英 語 | 522,950 | 30.81 (61.62) | 50 (100) | 0 (0) | 9.35 (18.70) | | | |

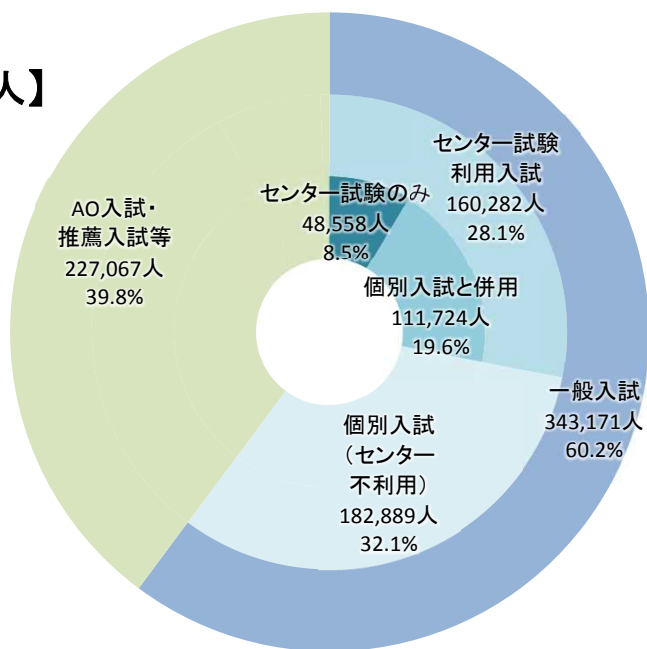
(注1) 平均点, 最高点, 最低点及び標準偏差欄の()内の数値は, 100点満点に換算したものである。

(注2) 上表の数値は, 得点調整後のものである。

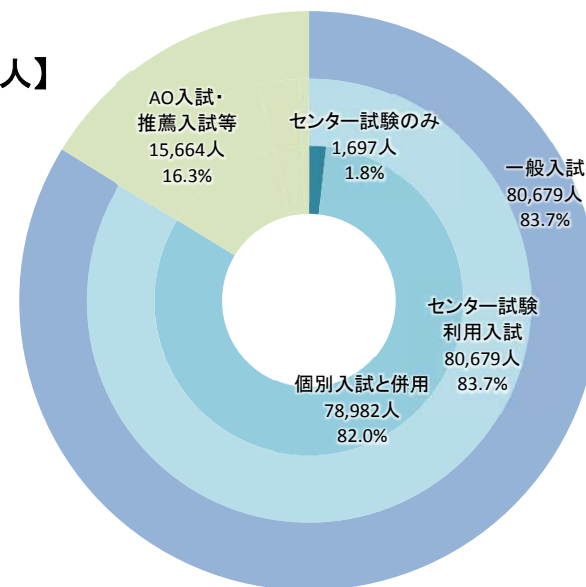
大学入試センター試験のみで合否判定を行う大学入試の状況(平成22年度入試)

国公立大学(全731大学)のうち、651大学(全大学の89.1%)がセンター試験利用入試を行い、うち、501大学(全大学の68.5%)がセンター試験のみで合否判定を行っているものの、募集人員は少ない。

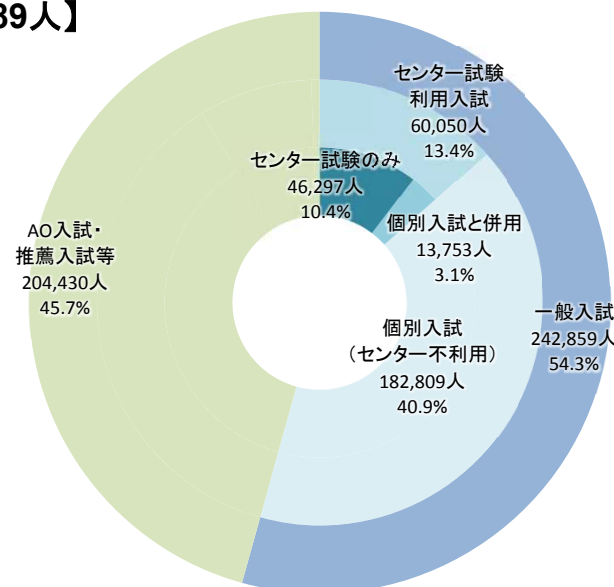
国公立計
【募集人員:570,238人】



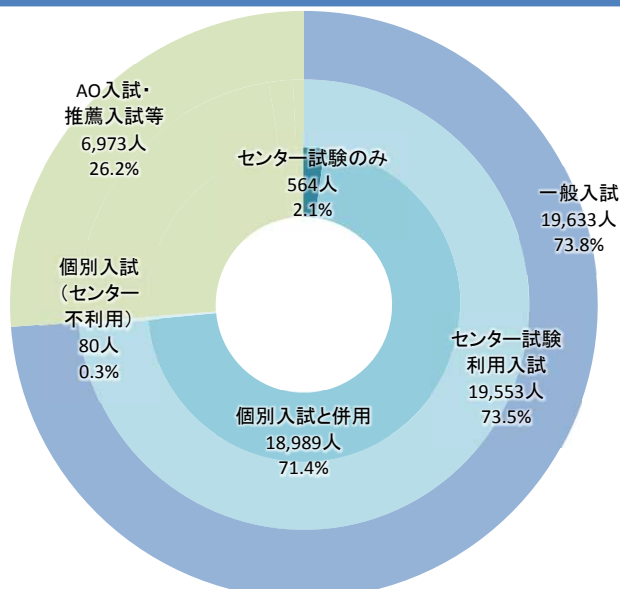
国立大学
【募集人員:96,343人】



私立大学
【募集人員:447,289人】



公立大学
【募集人員:26,606人】



注)平成22年度から公立化した静岡文化芸術大学、名桜大学は、私立大学に含む。

各国の大学入学者選抜に係る共通試験について

| 国名 | ドイツ | フランス | イギリス | アメリカ | | 韓国 | 日本 |
|---------------------|---|---|---|--|------------------------------|--|-------------------------|
| 共通試験 | アビトゥーア試験 | バカロレア試験 | GCE ALレベル | SAT | ACT | 大学修学能力試験 | 大学入試センター試験 |
| 試験回数・時期 | 1回。2～4月(記述式)と3～6月(口述式) | 1回。6月(9月に振替試験を実施) | 1回。5～6月 ※1月試験は2013年1月の実施を最後に廃止 | 7回(10、11、12、1、3、5、6月) | 6回(9、10、12、2、4、6月) | 1回。11月 | 1回。1月(+追試験) |
| 解答方式 | 記述式+口述式 | 記述式+口述式 | 記述式 | マークシート式+記述式(エッセイ) | マークシート式+記述式(エッセイ、ただしオプション) | マークシート式 | マークシート方式 |
| 試験方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 | PBT(紙媒体)方式 |
| 設定科目数 | 州により異なる。 ※3領域(言語・文学・芸術/社会科学/数学・自然科学・技術)から5科目又は4科目を選択。うち1科目は口述試験。 | 取得を目指すバカロレアの種類により異なるが、リセ(高校)で学習した科目を網羅。 ※普通(3コース)及び技術(8コース)は予備試験と本試験で必修10科目程度と自由選択2科目。職業(80以上の専門領域)は必修7科目と自由選択1科目。 | 実施機関ごとに異なる。Edexcelの2012年夏実施科目の場合、54科目 ※通常3科目程度を選択。 | 3領域(言語能力/ライティング/数学能力) 5分野(英語/歴史・社会学/数学/自然科学/外国語[リーディング、リスニング])20種類 ※難関大学において2科目程度必要。 | 4領域(英語/数学/読解/サイエンス) | 7領域(国語、数学、英語、社会探求、科学探求、職業探求、第2外国語/漢文)46科目 | 6教科29科目 |
| 実施主体 | 各州教育担当省 | 国民教育省 | 政府から独立した試験実施機関(Examining Board) | 実施主体であるCollege Board(大学協会)がETS(教育テスト事業団)に委託 | ACT Inc(アメリカ大学テスト会社) | 韓国教育課程評価院 | 独立行政法人大学入試センター |
| 主な①試験会場、②試験監督者、③採点者 | ①ギムナジウム(大学進学者が修学する中等教育機関)、②ギムナジウム教員、③ギムナジウム教員 | ①リセ(高校)、②リセ教員、③リセ教員 | ①中等学校、②中等学校教員、③Examining Boardが雇用した者 | ①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ETS | ①ハイスクール、コミュニティ・カレッジ、②不明、③ACT | ①高校(在学中の高校ではない)又は中学校、②高校教員又は中学校教員、③教育課程評価院 | ①試験参加大学、②大学教員、③大学入試センター |
| 合格率 | バーデン・ヴュルテンベルク州(2013年度)の場合 一般ギムナジウム:98.1% 職業ギムナジウム:95.4% | 86.8%(2013年) | 個別の大学が選抜に利用 | 個別の大学が選抜に利用 | 個別の大学が選抜に利用 | 個別の大学が選抜に利用 | 個別の大学が選抜に利用 |
| 入学時期 | 10月 | 9月 | 主に9月 | 主に9月 | 3月 | 4月 | |

今後の社会で特に重要となる能力等

求められる諸能力の育成のために各教科において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

平成27年12月22日
高大接続システム改革会議
資料3(一部改変)

※以下の各教科の内容については、次期学習指導要領に関する中央教育審議会における審議も踏まえ、見直しを行う必要

国語 において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

多様な見方や考え方が可能な題材に関する文章や図表等から得られる情報を整理し、概要や要点等を把握するとともに、

他の知識も統合して比較したり推論したりしながら

自分の考えをまとめ、

他の考えとの共通点や相違点等を示しながら、

伝える相手や状況に応じて適切な語彙、表現、構成、文法等を用いて効果的に伝えること

ア) 与えられた文章や図表等の中から情報を収集したり取り出したりする力

イ) 文章や図表等の情報を整理し、解釈する力

ウ) 文章や図表等の情報を要約したり、一般化したりする力

エ) 目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連づけたりする力

オ) 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力

カ) 得た情報を基に、立場や根拠を明確にしながら、論理的に思考する力

キ) 上記ア)～カ)のプロセスを経て、問題解決のための方法や計画(自分の考え)をまとめる力

ク) 上記ア)～キ)のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力

ケ) 受け手の状況を踏まえて表現する力

コ) 表現した結果を振り返り、さらに改善する力

数学

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、
事象から得られる情報を
整理・統合して問題を設定し、
解決の構想を立て、
数量化・図形化・記号化などをして数学的
に表現し、
考察・処理して結果を得、
その結果に基づきさらに推論したり傾向
や可能性を判断したりすること。

- ア) 問題文・図形等の事象やその数学的表現から情報を読み取る力
- イ) 事象から問題解決に必要な情報や条件を抽出・収集したり、仮定をおいて考えたりする力
- ウ) 情報を整理・統合して問題解決の方針を立てる力
- エ) 関係や命題等を、適切な数学的表現を用いて表す力
- オ) 数学の知識や技能を用いて論理的に考察・処理して結果を得る力
- カ) 得られた結果を吟味し、それを基にさらに推論したり、概念・法則・傾向等を見出して体系化したりする力
- キ) 数学的な過程や結果を他者に分かるように伝える力

理科(物理)

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

観察した自然事象の変化や特徴を捉え、

そこから得られる情報を整理・統合しながら、

問題を設定し仮説を立て予測し、

それらを確認するための観察・実験を
計画して実践し、

得られた結果から傾向等を読み取ったり、

モデルや図表等で表現したりするとともに、

結果に基づき推論したり、改善策を考え
たりすること。

ア)与えられた状況の中から、必要なデータや条件を抽出・収集する力

イ)抽出・収集したデータについて、それらの間の関係や傾向を見出す力

ウ)仮説を立てる力

エ)仮説を確認するための方法を立案し実践する力

オ)得られた結果にもとづいて仮説の妥当性を検討する力

カ)検討結果を、グラフや図などを用いて分かりやすく表現する力

キ)全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりする力

地理歴史(世界史)

において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

文章や年表、地図、図表等の資料から、歴史に関する情報を整理し、

その時代の人々が直面した問題や現代的な視点からの課題を見だし、

その原因や影響、あるいは解決策等についての仮説を立て、諸資料に基づき多面的・多角的に考察し、

その妥当性を検証し考えをまとめ、根拠に基づき表現すること。

ア) 歴史資料を読みとき、歴史に関する重要な情報を取り出す力

イ) 資料(文字資料・絵画・写真・歴史地図)と歴史上の事象との関わりを推論する力

ウ) 歴史上の出来事を時系列的に分析したり、因果関係を分析したりする力

エ) 歴史上の出来事や事象の因果関係、歴史上の出来事と現在との関係を多面的・多角的に考察する力

オ) 日本を含む世界の歴史の複合性や関連性を理解する力

カ) 資料等の根拠に基づいて、論理的に表現する力

英語 において重視すべき学習のプロセスと評価すべき具体的な能力(案)

例えば、

多様な見方や考え方が可能な幅広い話題・問題に関する情報を聞いたり英文や図表などを読んだりして、

情報を整理しながら概要や要点を把握し、

得られた情報を統合するなどして活用しつつ、様々な見方や考え方の共通点や相違点等を示しながら、自分の考えや主張を適切な語彙、表現、文法等を用いて効果的に伝えること

〈「聞くこと」〉

ア) まとまりのある英文や対話文などを聞き、必要な情報を得たり、概要や要点を把握して思考・判断する力

〈「読むこと」〉

イ) まとまりのある英文や図表を読み、必要な情報を検索したり、概要や要点を把握して思考・判断する力

〈「話すこと」〉

ウ) 多様な見方や考え方ができる時事問題や社会問題などについて、自分の意見や考えなどを、即興で話したり、ある程度準備をして適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に話して伝える力

〈「書くこと」〉

エ) 多様な見方や考え方ができる時事問題や社会問題などについて、自分の意見や考えなどを、論点や根拠を明確にしながら、適切な語彙・表現・文法を用いて論理的・批判的に書いて表現する力

〈「技能統合」〉(4技能のうち2技能以上を組み合わせると統合的に活用)

オ) 聞いたり読んだりして得た情報について、その概要や要点を的確に把握するとともに、他の情報も統合しながら自分の考えをまとめ、根拠を示しながら話したり、書いたりして表現する力

先行調査で評価しようとしている能力等(思考力・判断力・表現力等)の例

I. 特定の課題に関する調査 (論理的な思考)

【国立教育政策研究所】

<論理的に思考する過程での活動>

①規則、定義、条件等を理解し適用する

資料から読み取ることができる規則や定義等を理解し、それを具体的に適用する

②必要な情報を抽出し、分析する

多くの資料や条件から推論に必要な情報を抽出し、それに基づいて分析する

③趣旨や主張を把握し、評価する

資料は、全体としてどのような内容を述べているかを適確にとらえ、それについて評価する

④事象の関係性について洞察する

資料に提示されている事象が、論理的にどのような関係にあるのかを見極める

⑤仮説を立て、検証する

前提となる資料から仮説を立て、他の資料などを用いて仮説を検証する

⑥議論や論証の構造を判断する

議論や論争の論点・争点について、前提となる暗黙の了解や根拠、また、推論の構造などを明らかにするとともに、その適否を判断する

※上記①～⑥のそれぞれの活動において、思考の過程や結論を適切に表現することを評価する問題も併せて出題

II. 全国学力・学習状況調査

【文部科学省】

【主として「活用」に関する問題の基本理念】

・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

○国語では、実生活の具体的な場面や生徒が授業などで実際に行っている言語活動を想定

○数学では、次のような数学的なプロセスを整理

- ・日常的な事象等を数学化すること
- ・情報を活用すること
- ・数学的に解釈することや表現すること
- ・問題解決のための構想を立て実践すること
- ・結果を評価し改善すること
- ・他の事象との関係を捉えること
- ・複数の事象を統合すること
- ・事象を多面的に見ること

III. PISA調査(3分野) 【OECD】

【読解力】<読む行為の側面>

①情報へのアクセス・取り出し

情報を見つけ出し、選び出し、集める

②テキストの統合・解釈

テキストの中の異なる部分の関係を理解し、推論によりテキストの意味を理解する

③テキストの熟考・評価

テキストと自らの知識や経験を関連付けたり、テキストの情報と外部からの知識を関連付けたりしながら、テキストについて判断する

【数学的リテラシー】 <数学的プロセスの側面>

①定式化

数学を応用し、使う機会を特定することを含めて、提示された問題や課題を数学によって理解し、解決することができること

②適用

数学的に推論し、数学的概念・手順・事実・ツールを使って数学的に問題を解決すること

③解釈

数学的な解答や結果を検討し、問題の文脈の中でそれらを解釈すること

【科学的リテラシー】 <科学的能力の側面>

①科学的な疑問を認識する能力

与えられた状況において科学的に調査できるような疑問を認識すること

②現象を科学的に説明する能力

現象を科学的に記述し、解釈し、変化を予測すること

③科学的な証拠を用いる能力

科学的証拠を解釈し、結論を導き、伝達すること、結論の背景にある仮定や証拠、推論を特定すること

IV. PISA調査 (問題解決能力調査)

【OECD】

<問題解決のプロセスの側面>

①探究・理解

問題状況を観察し、情報を探究して、制約又は障壁を見つけ出す。与えられた情報及び問題状況を通じて、見つけ出した情報を理解していることが示される

②表現・定式化

問題状況の各側面を表現するために、表やグラフ、記号、言語を用いる。関連要素とその相互関係に関する仮説を立てる

③計画・実行

最終的な目標及びそれに向けての小さな目標を設定し、問題を解決するための計画又は方法を決定して、それに従い実行する

④観察・熟考

問題解決へと至るそれぞれの段階・過程を観察する。途中経過を確認し、想定していない出来事と遭遇した場合、必要な処置を行う。解決に至る方法を様々な観点から熟考し、想定や別の解決策を批判的に評価し、追加情報や明確化の必要性を認識し、進捗状況を適切な方法で報告する

高等学校学習指導要領の主なポイント

1. 基本的考え方

教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視

道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成

2. 卒業単位数、必修科目、教育課程編成時の配慮事項等

- 卒業までに修得させる単位数は、現行どおり74単位以上
- 共通性と多様性のバランスを重視し、学習の基盤となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科の科目履修の柔軟性を向上
- 週当たりの授業時数(全日制)は標準である30単位時間を超えて授業を行うことができることを明確化
- 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることを促進

3. 教育内容の主な改善事項(抜粋)

言語活動の充実

- 国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習を充実、総則において基本的な考え方を明示

総合的な学習の時間の充実

- 「横断的・総合的な学習」に加えて「探究的な学習」の充実、総則から取り出し新たに章立て

体験活動の充実

- ボランティア活動などの社会奉仕、就業体験の充実(特別活動)

4. 実施スケジュール

- 平成21年:高等学校学習指導要領改訂
- 平成22年度:総則(言語活動の充実等)、総合的な学習の時間、特別活動について先行実施
- 平成24年度:数学、理科及び理数について先行実施(平成24年度入学者から年次進行で実施)
- 平成25年度:全面実施(平成25年度入学者から年次進行で実施)

言語活動の充実

【国語科】

小学校教育及び中学校教育を通じて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことのそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動を例示しており、高等学校教育では、討論、解説、創作、批評、編集などの言語活動を例示している。

【各教科】

- ・「現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる」指導事項の新設(地理歴史「世界史A」)
- ・「論述したり、討論したりするなどの活動」の重視(公民「倫理」)
- ・「自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり、議論したりする」といった数学的活動の充実(数学)
- ・「観察、実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、それらを表現するなどの学習活動を充実すること」(理科)
- ・「筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習を充実」すること(保健体育「体育」)
- ・「楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動」の重視(芸術「音楽Ⅰ」)
- ・「作品について互いに批評し合う活動」の重視(芸術「美術Ⅰ」「工芸Ⅰ」「書道Ⅰ」)
- ・「子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者とかわる力が高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉概念などを用いて考察する活動、判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり適切な解決方法を探究したりする活動などを充実すること」(家庭)
- ・「望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用」や「情報技術の進展と情報モラル」について「生徒が主体的に考え、討議し、発表し合うなどの活動」の重視(情報)
- ・ 言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う(外国語科)

【総合的な学習の時間】

・「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」を重視している。

【特別活動】

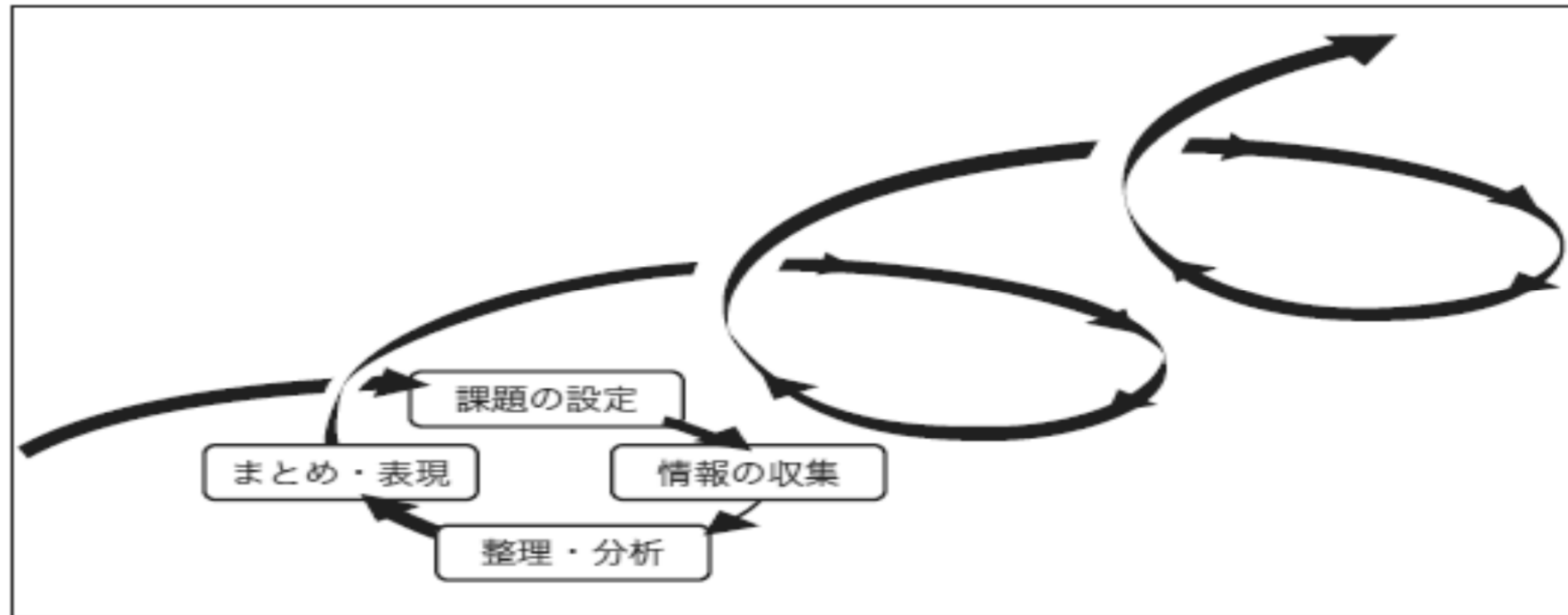
・「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動」の充実が規定された。

総合的な学習の時間の充実

- 学習過程を探究的にすること

- ①【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりする
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えをまとめ、判断し、表現する

探究の過程の連続



③整理・分析

②の学習活動によって収集した情報を整理したり、分析したりして、思考する活動へと高めていく。収集した情報は、それ自体はつながりのない個別なものである。それらを種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化して因果関係を導き出したり、多面的・多角的な視点で分析したりする。それが思考することであり、そうした学習活動を位置付けることが重要である。

例えば、地球の気温変化の推移と産業革命などによる生活の変化を時間軸で整理し関連付けたり、季節による電力使用量やインタビュー結果の分類を統計的手法で分析したりすることなどが考えられる。また、未来のエネルギー源について、持続化可能な社会の構築をテーマに論理的に話し合っていくことなども考えられる。

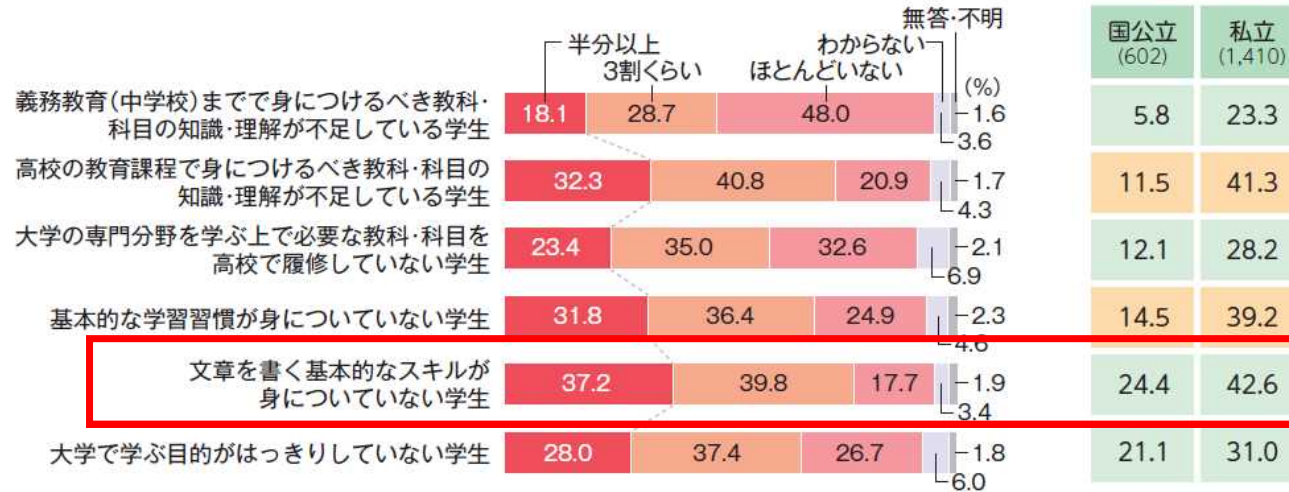
このような学習活動を通して、生徒は収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理や分析を行う。このことこそ、情報を活用した活発な思考の場面であり、こうした学習活動を適切に位置付けることが重要である。その際には、以下の点に配慮したい。

- 一つは、どのような情報が、どの程度収集されているかを把握することである。数値化した情報と言語化した情報とでは扱い方が違ってくる。また、学習対象として扱う情報の分量によっても学習活動は変わってくる。
- 二つは、どのような方法で情報の整理や分析を行うのかを決定することである。
- **数値化された情報**であれば、統計的な手法でグラフにすることが考えられる。グラフの中にも、折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラムなど様々な方法が考えられる。また、標本調査の考え方を利用して母集団の傾向を探ったり、表計算ソフトを使って情報を処理したりすることも考えられる。
- **言語化された情報**であれば、カードにして整理する方法、出来事を時間軸で並べる方法、調査した結果をマップなどの空間軸に整理する方法などが考えられる。あるいは、複数の整理された情報を関連付けることも考えられる。
- 情報の種類や量に応じて適切な整理や分析の方法が考えられるとともに、その学習活動によって、どのように考えさせたいのかが問われる。
- 例えば、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けして考える、因果関係から考える、多面的・多角的な視点で考えるなどである。何を、どのように考えさせたいのかを意識し、学習活動を適切に位置付けることがポイントになる。
- なお、ここでも、国語科や数学科、情報科など各教科・科目での学習成果が生かされることは、先に記した事例から明らかである。

大学入学者の学力・学習状況（特に文章を書く基本的なスキルの状況）

入学者の学力・学習の状況(全体)【大学】

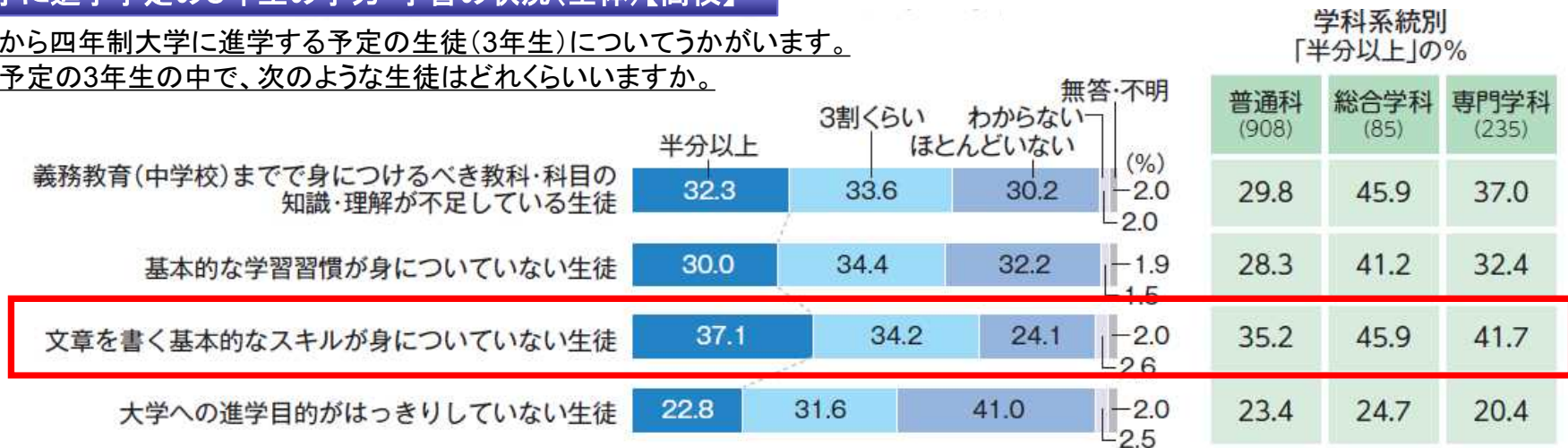
Q: 貴学科の1年生についてお聞きます。貴学科の今年度の1年生で、次のような学生はどれくらいいますか。



注1) 「半分以上」の割合は、「ほとんど全員」「7割くらい」「半分くらい」の合計の値。図1-2も同じ。
注2) 設置者別の表の は、20ポイント以上の差があるものを表す。

四年制大学に進学予定の3年生の学力・学習の状況(全体)【高校】

Q: 貴校から四年制大学に進学する予定の生徒(3年生)についてうかがいます。進学予定の3年生の中で、次のような生徒はどれくらいいますか。



(出典) ベネッセ教育総合研究所「高大接続に関する調査(2013年)」

| | | |
|---|---|---|
| <p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の高等学校の校長 ・全国の大学の学科長 | <p>【有効回答数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校1,228名(配布数2,500通、回収率49.1%) ・大学2,012名(配布数5,060通、回収率39.8%) | <p>【調査時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年11月～12月 |
|---|---|---|

大学入試改革に関する調査結果①

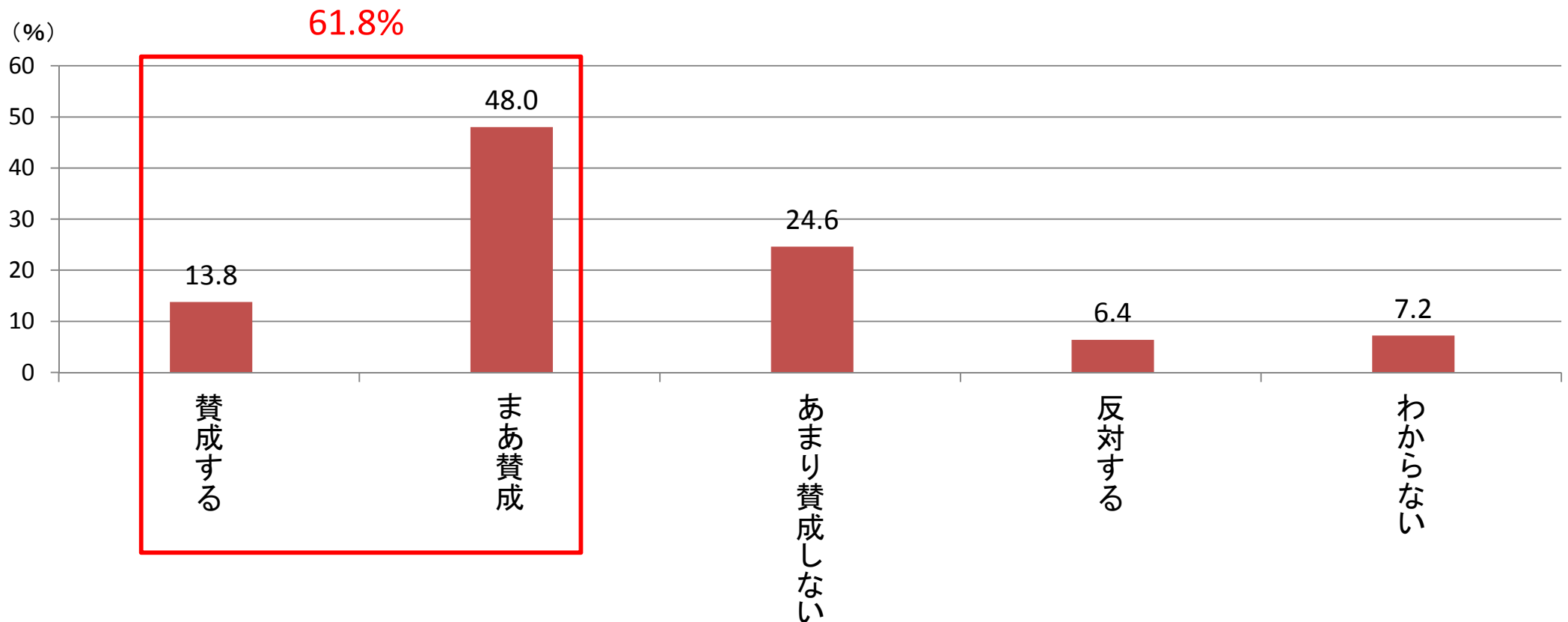
(参考) 大学入試改革に関する調査 (文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

- ◆ 実査期間：2016年2月3日(水)～2月9日(火)
- ◆ 調査対象：全国に居住する大学1年生/短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通過して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法：インターネットリサーチ

◆ 「(条件付)記述式」問題増加に「賛成する」「まあ賛成」と回答した者は62%。

■ 「(条件付)記述式」問題増加への賛否(全体/単一回答)

Q. 「(条件付)記述式」の問題が増えることについて、あなたはどのように思いますか。



大学入試改革に関する調査結果②

(参考) 大学入試改革に関する調査 (文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

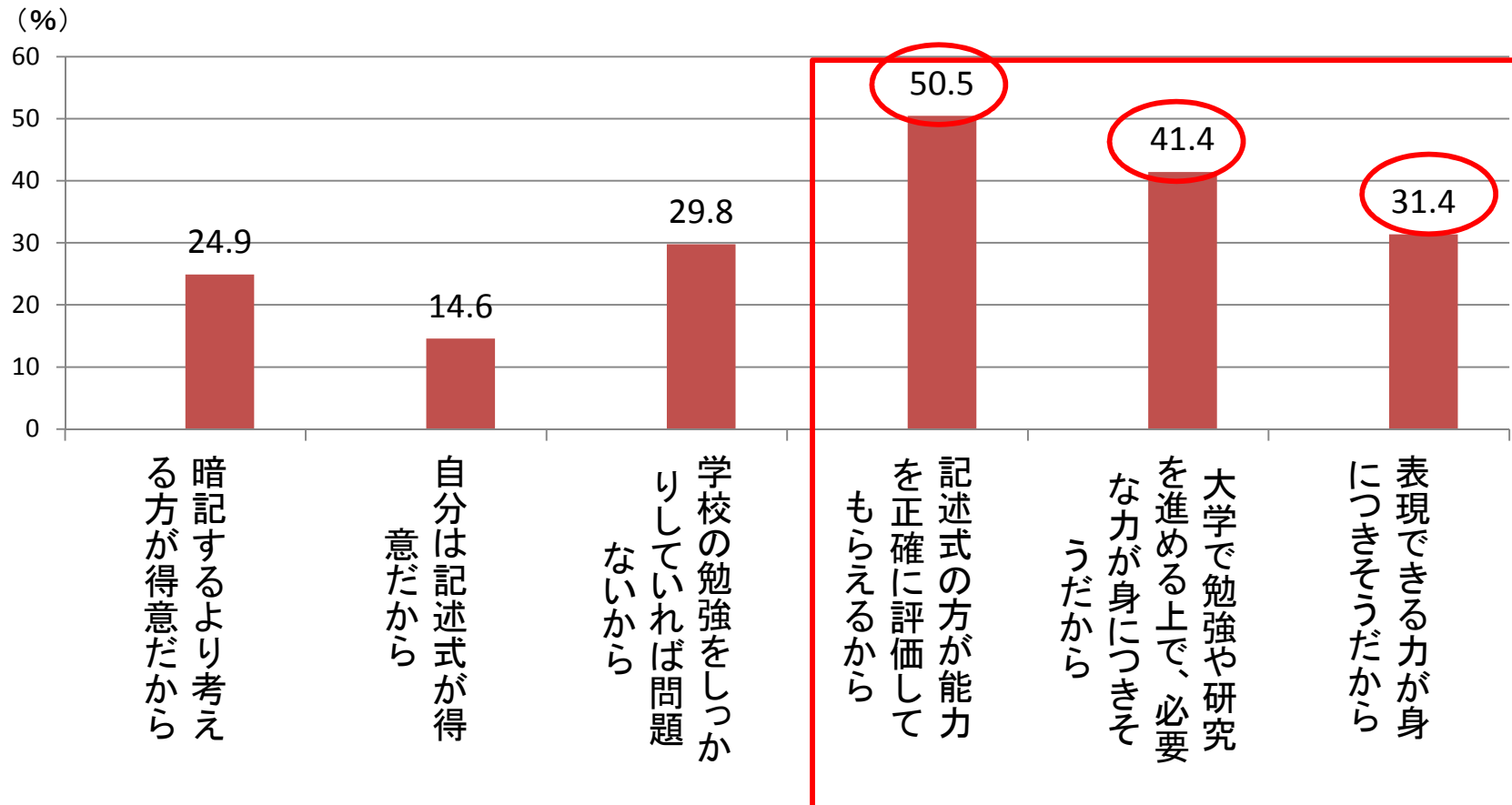
- ◆ 実査期間：2016年2月3日 (水) ~2月9日 (火)
- ◆ 調査対象：全国に居住する大学1年生/短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通過して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法：インターネットリサーチ

◆ 賛成理由のトップは、「記述式の方が能力を正確に評価してもらえるから」51%。

—「大学で勉強や研究を進める上で、必要な力が身につくそうだから」41%、「表現できる力が身につくそうだから」31%で続く。

■ 「(条件付)記述式」問題増加への賛成理由

Q. 前の質問で、あなたが「賛成」または「まあ賛成」と回答した理由はどのようなものですか。



大学入試改革に関する調査結果③

(参考) 大学入試改革に関する調査 (文部科学省の委託により株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施)

- ◆ 実査期間：2016年2月3日 (水) ~2月9日 (火)
- ◆ 調査対象：全国に居住する大学1年生/短期大学1年生の男女のうち、「一般入試」もしくは「センター試験利用入試」のいずれか、もしくは両方を通過して合格・入学した者 500名
- ◆ 調査方法：インターネットリサーチ

◆ 高大接続システム改革会議 (第9回) で示した記述式問題イメージ例について、質問項目に対する「そう思う」のスコアをみると、

1位 「暗記中心の勉強だけだと対応できない」 73%

2位 「正確な採点をしてくれるかどうか不安だ」 68%

3位 「自分で組み立てて書くのが面倒だ」 55%

◆ 「そう思わない」のスコアをみると、「これまでの問題とあまり変わらない」が51%。

■ 試験問題サンプルの印象 (全体/各単一回答)

「(条件付)記述式」テストは、以下のような問題です。こちらを読んで、あなたはどのような印象を持ちましたか。以下にあげる項目について、どの程度そう思うかをお答えください。

| | そう思う | | どちらとも いえない | そう思わない | | そう思う | そう 思わない |
|-----------------------|---------|--------------|---------------|---------------|----------------|------|------------|
| | とてもそう思う | ある程度 そう思う | | あまり そう思わない | まったく そう思わない | | |
| (n= 500) ● 凡例 | | | | | | | |
| これまでの問題とあまり変わらない | 7.2% | 15.4 | 26.0 | 35.6 | 15.8 | 22.6 | 51.4 |
| 自分で組み立てて書くのが難しい | 10.4 | 36.2 | 27.8 | 21.2 | 4.4 | 46.6 | 25.6 |
| 自分で組み立てて書くのが面倒だ | 14.6 | 40.8 | 26.4 | 13.8 | 4.4 | 55.4 | 18.2 |
| 選択肢がないと不安だ | 14.6 | 35.8 | 24.2 | 18.8 | 6.6 | 50.4 | 25.4 |
| 自分は苦手な問題だ | 15.0 | 22.2 | 32.6 | 22.6 | 7.6 | 37.2 | 30.2 |
| 学校ではこうした問題の考え方は習っていない | 14.6 | 29.8 | 32.4 | 16.6 | 6.6 | 44.4 | 23.2 |
| 学校の勉強だけでは答える力が身につかない | 15.4 | 29.8 | 32.2 | 15.2 | 7.4 | 45.2 | 22.6 |
| 学校の勉強をしっかりしていれば問題ない | 9.6 | 24.6 | 35.2 | 23.6 | 7.0 | 34.2 | 30.6 |
| 暗記中心の勉強だけだと対応できない | | 34.2 | 39.2 | 20.2 | 4.0 2.4 | 73.4 | 6.4 |
| 正確な採点をしてくれるかどうか不安だ | | 33.6 | 34.4 | 21.8 | 7.0 3.2 | 68.0 | 10.2 |

センター試験志願者数／国立大学（前期試験）志願者数

1. 高校卒業者数に占める各志願者数の割合

| 高校卒業者数 |
|------------|
| 1,047,392人 |
| 100.0% |

| 大学入学志願者数 | センター試験志願者数 | 国立大学志願者数 （前期試験） |
|----------|------------|--------------------|
| 719,955人 | 560,672人 | 201,575人 |
| 68.7% | 53.5% | 19.2% |

2. 大学入学志願者数に占める各志願者数の割合

| 大学入学志願者数 | センター試験志願者数 | 国立大学志願者数 （前期試験） |
|----------|------------|--------------------|
| 719,955人 | 560,672人 | 201,575人 |
| 100.0% | 77.9% | 28.0% |

多肢選択式と条件付記述式の相違のイメージ例（たたき台）

大学入試センター試験 の多肢選択式

◎評価の対象となるのは、問題文を読んで
選択肢の中から正しい答えを選択する力

選択肢 ① 選択肢 ② 選択肢 ③ 選択肢 ④ 選択肢 ⑤



選択肢 ①

を選択

例えば、設問で一定の条件を設定した上で、それを踏まえて、結論や結論に至るプロセスを解答させることが必要

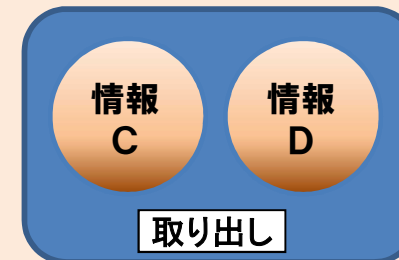
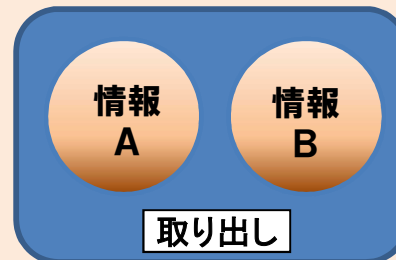
「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」 の条件付記述式

◎評価の対象としたいのは、単に答えを出す力ではなく、
下記□□□□で示すような思考・判断・表現のプロセスで
必要となる具体的な力

※発想としては、例えば、 $2+3=\square$ ではなく、 $5=\triangle+\circ$ を求めることや、一定の条件の下で $1+\square=\triangle$ という式を考えることなど

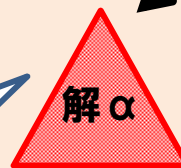
[問題文にある情報]

[他の情報]



統合

比較、関連付け、推論、仮説形成、吟味
...等の思考・判断プロセスを経て



を構成し、表現

各専攻分野を通じて培う学士力 ～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～

(「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日中央教育審議会答申)より)

学士課程の各専攻分野を通じて培う力。教養を身に付けた市民として行動できる能力。

～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解

(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

(1) コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

(2) 数量的スキル

自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

(3) 情報リテラシー

情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(4) 論理的思考力

情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

(5) 問題解決力

問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

3. 態度・志向性

(1) 自己管理力

自らを律して行動できる。

(2) チームワーク、リーダーシップ

他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。

(3) 倫理観

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

(4) 市民としての社会的責任

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

(5) 生涯学習力

卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

大規模共通テストの実施方法等

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」記述式の採点期間に係る試算

高大接続システム改革会議 中間まとめにおける記述式に関する記載

- 平成32～35年度 短文記述式の問題を導入
- 平成36年度～ より文字数の多い記述式の問題を導入

【試算】(条件設定や採点の技術的工夫等により変動する可能性を含むもの)

| 問題形式 | 出題の内容 | | 各設問ごとの採点にかかる日数(試算) |
|-------------|-----------------|-----------|--------------------|
| 短文記述式 | 例: 数式などを記述させる問題 | | 1日程度 |
| | 国語: <例1> 問1※1 | 40字×4条件 | 3日程度 |
| | 国語: <例2> | 40字×4条件 | 3日程度 |
| | 国語: <例1> 問2 | 80字×6条件 | 4日程度 |
| より文字数の多い記述式 | 国語: | 200字×8条件 | 6日程度 |
| | 国語: <例3> | 300字×10条件 | 7日程度 |

A
A'
B
P'
P

| 各パターンごとの採点にかかる日数(試算) | | | 採点の事前・事後にかかる日数(試算)※2 |
|----------------------|--|---------|----------------------|
| パターンⅠ | 数式などを記述させる問題3問+短文記述式(A+B) | = 10日程度 | +10~15日 |
| パターンⅡ | 短文記述式(A+A'+B) | = 10日程度 | +10~15日 |
| パターンⅢ | 短文記述式(A+A'+B)×2 | = 20日程度 | +15~20日 |
| パターンⅣ | 短文記述式(A+A'+B+B') +より文字数の多い記述式(P+P') | = 30日程度 | +20~30日 |

【試算に当たっての前提】 ◆実働800人/日の採点者を確保した場合を想定(難易度や科目の特性、今後の更なる検証結果等を踏まえ、数値は変動する)。

◆受験者数は最大53万人を想定。各正答条件を2名で採点。

※1 高大接続システム改革会議(第9回)で示した問題イメージ例における設問を指す。以下、<例2><例3>についても同じ。

※2 テスト実施後、採点の事前・事後に、採点基準の確定、研修、成績提供準備等に係る期間が必要。

● 採点期間を短縮するために考えられる取組の例

<出題形式の工夫による採点工程の工夫>

○客観的な条件(例:キーワード、字数制限等)を問題に設定する

<採点の工夫を助ける技術の導入>

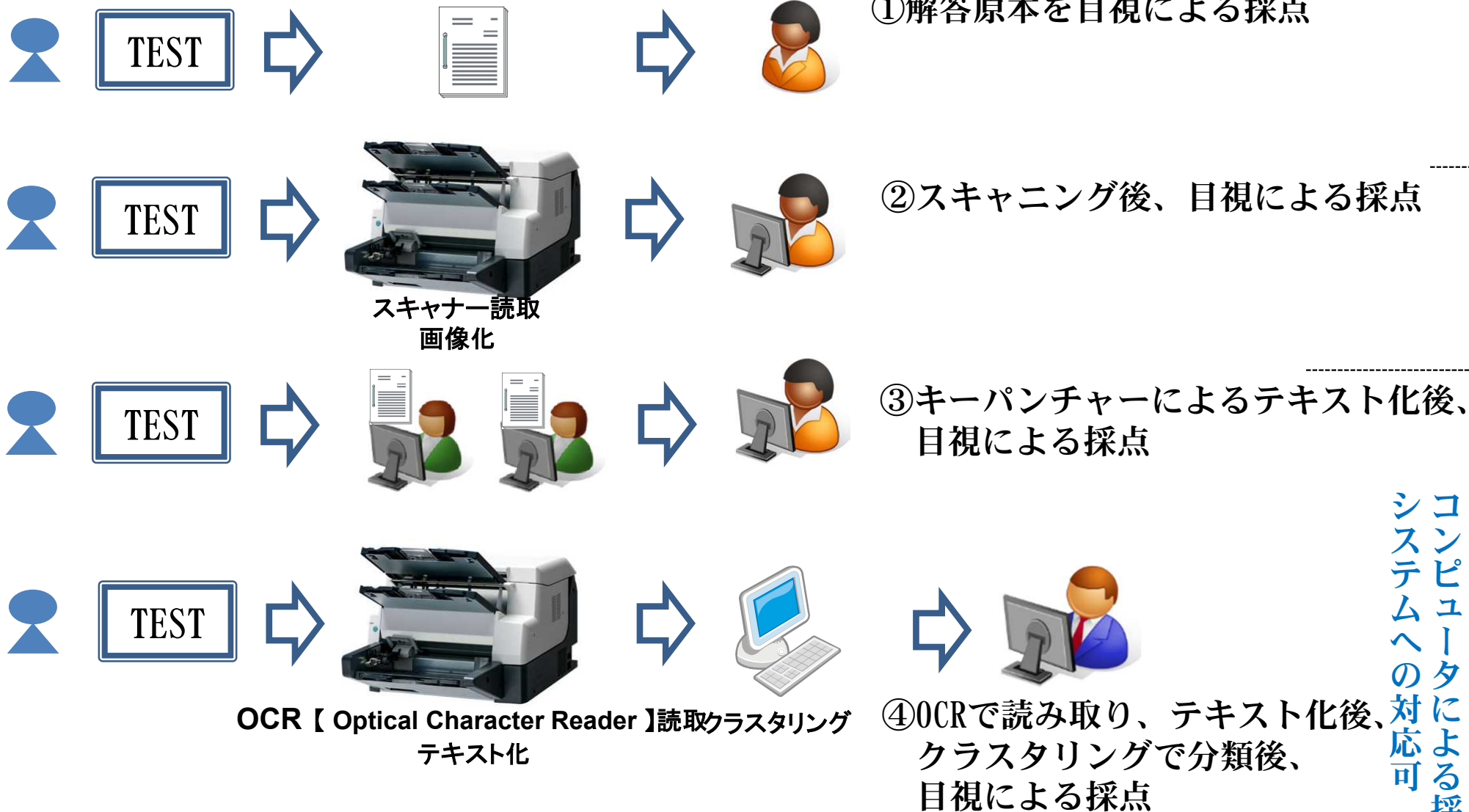
○クラスタリングの改善により、答案の分類・並び替えの精度を向上し、採点工程を工夫する

○OCR機能を向上させるための研究開発を行う など

※ここでいうOCRとは、「スキャナで読み取った画像から文字を識別して文書に変換すること」を指す。

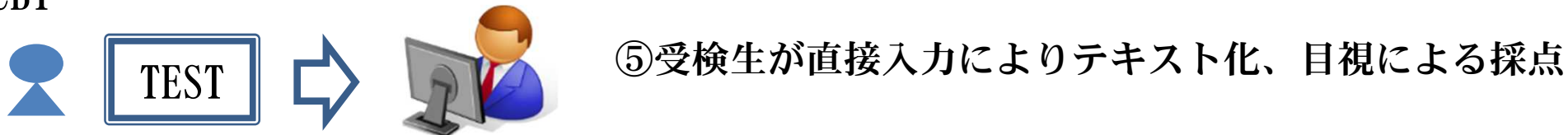
記述式採点の効率化①

■PBT



WEB採点システムへの対応可
コンピュータによる採点支援
システムへの対応可

■CBT



記述式採点の効率化②

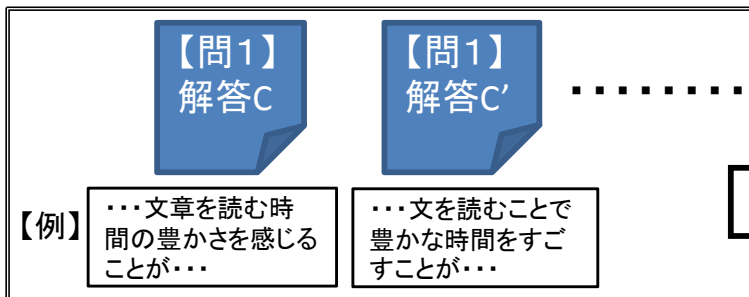
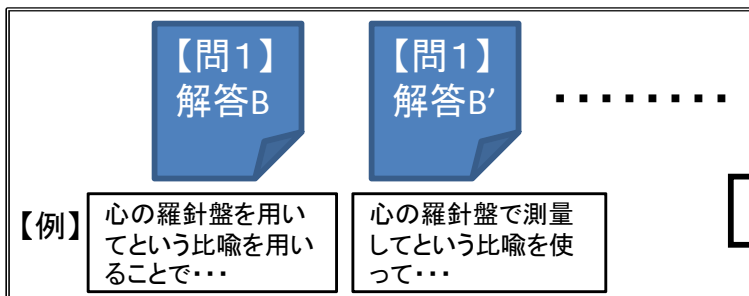
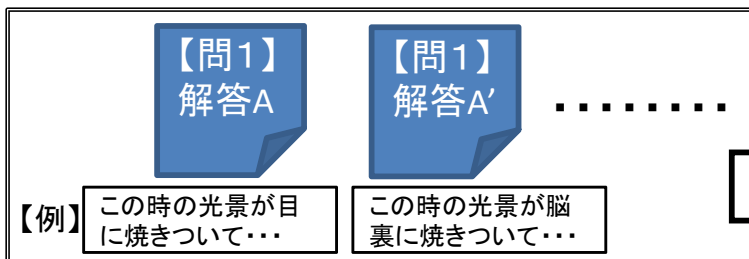
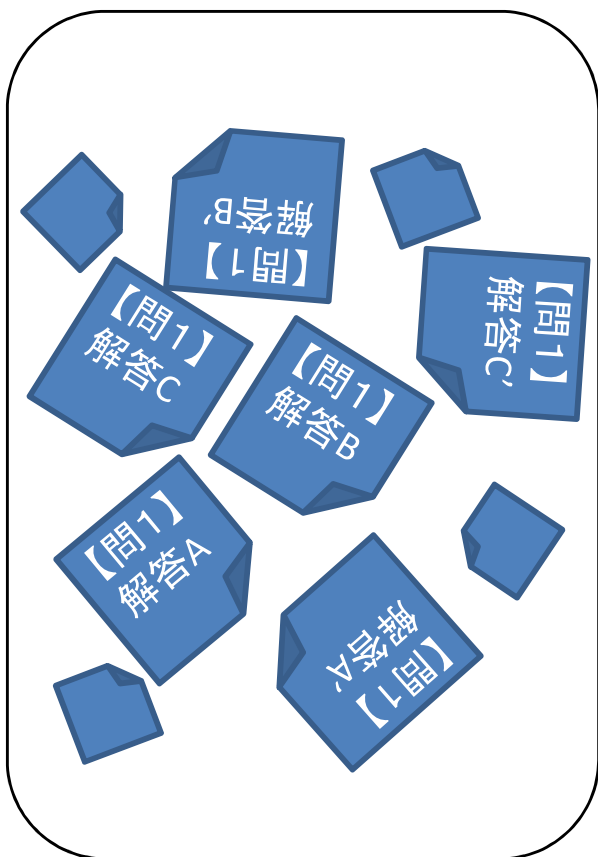
【クラスタリングによる採点の効率化】

デジタル化した記述式問題の解答を、テキスト処理により類似した解答ごとにグループ化(クラスタリング)し、グループごとに採点を行う。このことにより、採点効率が向上し、採点時間や採点の揺らぎを減らすことが期待できる。

【クラスタリングのイメージ】

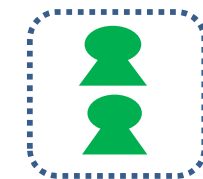
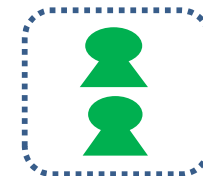
クラスタリング

類似した解答ごとにグループ化する



採点

グループごとに採点



SATの段階区分

SAT Reasoning TestはMath(数学), Critical Reading(読解), Writing(エッセイと文法)の3領域で構成されており各々200-800点の間で10点刻みで表示(61段階)。500点が平均となるように設計されている。合計2400点で181段階表示。

| Math | Critical Reading | Writing |
|------|------------------|---------|
| 段階 | 段階 | スコア表示 |
| 1 | 1 | 200 |
| 2 | 2 | 210 |
| 3 | 3 | 220 |
| 4 | 4 | 230 |
| 5 | 5 | 240 |
| 6 | 6 | 250 |
| 7 | 7 | 260 |
| 8 | 8 | 270 |
| 9 | 9 | 280 |
| 10 | 10 | 290 |
| | | |
| 47 | 47 | 660 |
| 48 | 48 | 670 |
| 49 | 49 | 680 |
| 50 | 50 | 690 |
| 51 | 51 | 700 |
| 52 | 52 | 710 |
| 53 | 53 | 720 |
| 54 | 54 | 730 |
| 55 | 55 | 740 |
| 56 | 56 | 750 |
| 57 | 57 | 760 |
| 58 | 58 | 770 |
| 59 | 59 | 780 |
| 60 | 60 | 790 |
| 61 | 61 | 800 |

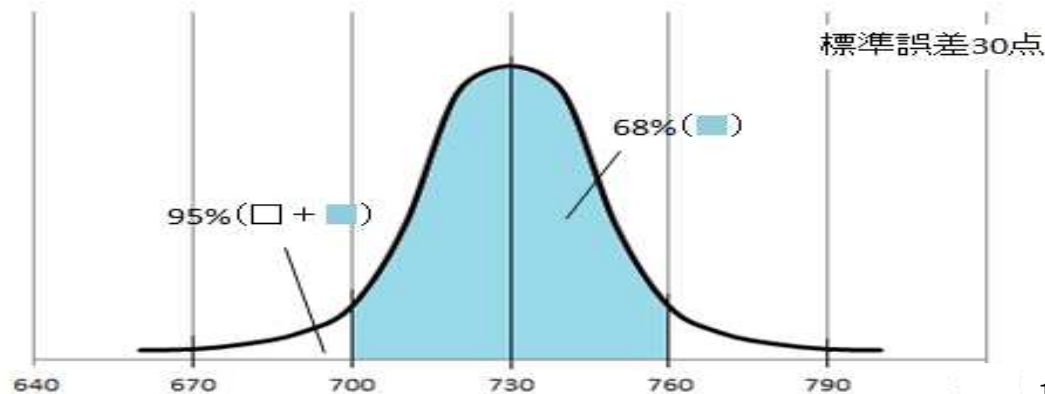
3領域合計

| 段階 | スコア表示 |
|-----|-------|
| 1 | 600 |
| 2 | 610 |
| 3 | 620 |
| 4 | 630 |
| 5 | 640 |
| 6 | 650 |
| 7 | 660 |
| 8 | 670 |
| 9 | 680 |
| 10 | 690 |
| 11 | 700 |
| | |
| 168 | 2270 |
| 169 | 2280 |
| 170 | 2290 |
| 171 | 2300 |
| 172 | 2310 |
| 173 | 2320 |
| 174 | 2330 |
| 175 | 2340 |
| 176 | 2350 |
| 177 | 2360 |
| 178 | 2370 |
| 179 | 2380 |
| 180 | 2390 |
| 181 | 2400 |



各領域のスコアに加え、領域を構成するサブスコアも表示・通知される。

測定値の標準誤差(正規分布の標準偏差)は30点。仮にスコアが730点であれば真のスコアが700-760点である確率が68%。670-790点である確率が95%。SAT Reasoning TestではMath(数学), Critical Reading(読解)においては60点違えば能力に違いがあると判断している。



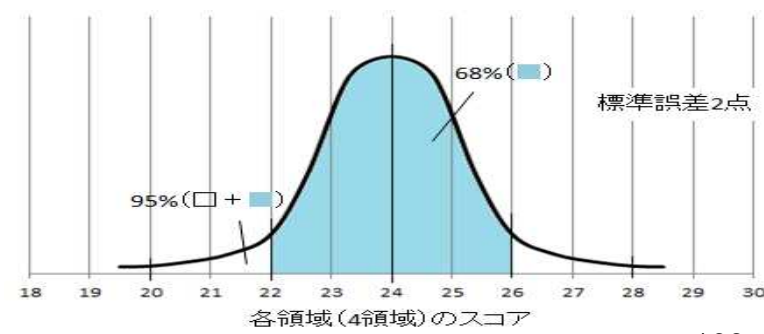
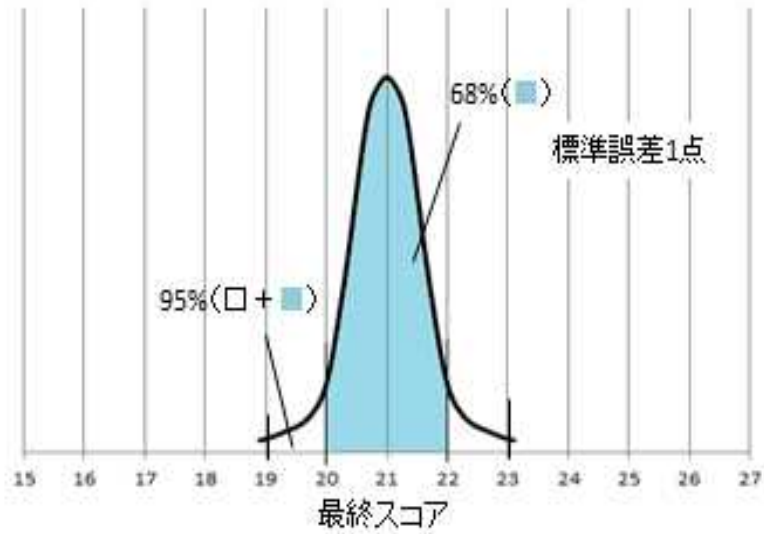
ACTの段階区分

ACT(The American College Testing Program)は、Math(数学)、English(英語)、Reading(読解)、Science(科学)の4領域及びComposite(全体)で構成されており、各々1-36点の36段階表示。オプション選択のWriting(エッセイ)は2-12点の11段階表示。4領域全体は点数の合算ではなく、1-36点の36段階表示。

| スコア <点> | Science(科学) <パーセンタイル> | Reading(読解) <パーセンタイル> | English(英語) <パーセンタイル> | Math(数学) <パーセンタイル> | | | |
|------------|--------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|--------------|----------------|----|
| スコア <点> | 全体 | 全体 | 慣用法/技法 | 代数入門/ 初等代数 | 代数/ 座標幾何学 | 平面幾何学/ 三角関数 | 単位 |
| 36 | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 | |
| 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | |
| 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | 34 | |
| 33 | 33 | 33 | 33 | 33 | 33 | 33 | |
| 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | |
| 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | 31 | |
| 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | |
| 29 | 29 | 29 | 29 | 29 | 29 | 29 | |
| 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | |
| 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | |
| 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | 26 | |
| 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | |
| 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | |
| 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | 23 | |
| 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | 22 | |
| 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | 21 | |
| 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | |
| 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | |
| 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 | |
| 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | 16 | |
| 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | |
| 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | |
| 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | |
| 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | |
| 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | |
| 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| 09 | 09 | 09 | 09 | 09 | 09 | 09 | |
| 08 | 08 | 08 | 08 | 08 | 08 | 08 | |
| 07 | 07 | 07 | 07 | 07 | 07 | 07 | |
| 06 | 06 | 06 | 06 | 06 | 06 | 06 | |
| 05 | 05 | 05 | 05 | 05 | 05 | 05 | |
| 04 | 04 | 04 | 04 | 04 | 04 | 04 | |
| 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | |
| 02 | 02 | 02 | 02 | 02 | 02 | 02 | |
| 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | |
| 平均 | 02 | 11 | 01 | 58 | 65 | 63 | |
| 標準偏 | 01 | 03 | 10 | 49 | 52 | 52 | |
| 平均 | 02 | 09 | 01 | 39 | 36 | 28 | |
| 標準偏 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | |
| 平均 | 03 | 01 | 01 | 01 | 01 | 02 | |
| 標準偏 | 02 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | |
| 平均 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | 01 | |
| 標準偏差 | 5.3 | 3.6 | 2.9 | 3.1 | | | |

| スコア <点> | Composite(全体) <パーセンタイル> |
|------------|----------------------------|
| 36 | 99 |
| 35 | 99 |
| 34 | 99 |
| 33 | 99 |
| 32 | 98 |
| 31 | 97 |
| 30 | 96 |
| 29 | 94 |
| 28 | 91 |
| 27 | 88 |
| 26 | 84 |
| 25 | 80 |
| 24 | 74 |
| 23 | 69 |
| 22 | 62 |
| 21 | 55 |
| 20 | 48 |
| 19 | 41 |
| 18 | 34 |
| 17 | 27 |
| 16 | 21 |
| 15 | 15 |
| 14 | 10 |
| 13 | 06 |
| 12 | 03 |
| 01 | 01 |
| 平均 | 21.1 |
| 標準偏差 | 5.1 |

【パーセンタイル】
 ※例えば、計測値として100個ある場合、5パーセンタイルであれば小さい数字から数えて5番目に位置し、50パーセンタイルであれば小さい数字から数えて50番目に位置し、95パーセンタイルであれば小さい方から数えて95番目に位置する。



※スコア(段階)は、等分位ではない。

成績表示の具体例

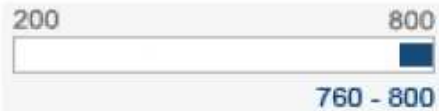
旧SAT

● SATスコアレポート (Writing要約ページ日本語訳)

得点ではなく正答数を表示

WRITING: **800**

得点範囲



テストを複数回受験する場合、点数が異なる場合があります。上記は再び受験した際に期待される点数を得点範囲として表しています。

パーセンタイル : **99%**

WRITING

文章の改善

25

25

0

0

文章間違いの特定

18

18

0

0

段落の改善

6

6

0

0

複数選択問題総計

49

49

0

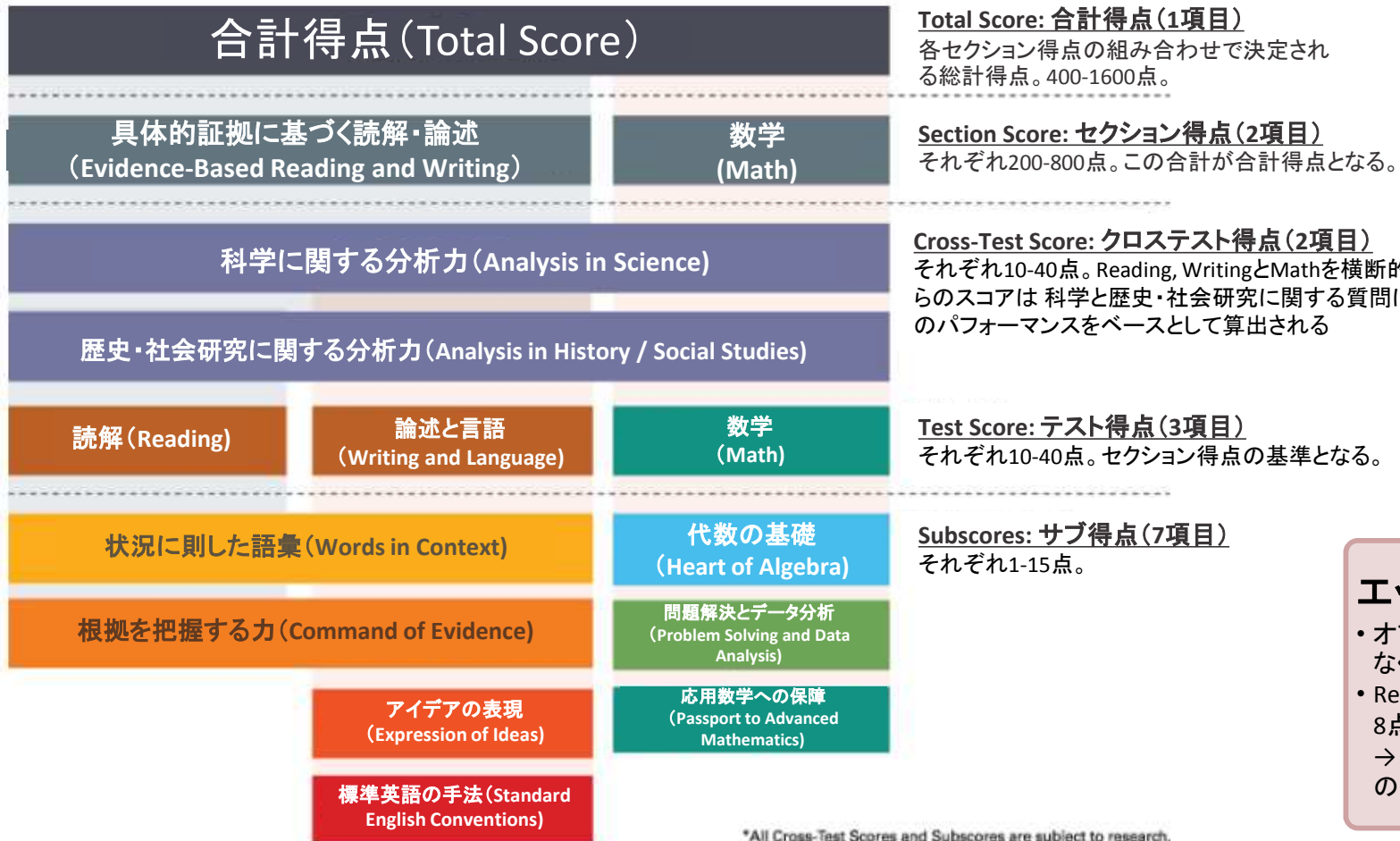
0

エッセイ: **10**

WritingにのみEssayのスコアの表記がある。Essayのスコアの範囲は2-12点。

● 新SATの得点構造について

- 新SATでは現行SATと比較してより詳細に、より巨視的になっている。
- 現行SATでは2,400点満点だったのが、新SATでは1,600点満点になる。
- サブ得点とクロスセクション得点が新しく追加される。



*All Cross-Test Scores and Subscores are subject to research.

エッセイについて

- オプションとなり、総合スコアには関係なく別に表示される。
- Reading、Analysis、Writing (それぞれ2-8点) で評価される。
→ 2人の採点者が1-4点で採点し、その合計点が点数となる。

等化の代表的な方法

○ 等化とは、同一の仕様(specification)に基づき開発される問題項目の内容が異なる複数のテストにおいて、受検したテスト結果を共通の尺度上の得点で表現し、複数のテストの受検者間で得点を相互に比較することを可能にする統計的操作のこと(同一の仕様とは、測定する能力、問題の種類、問題の形式、テスト時間などが等しくなるように設計されているということ)。

○ テスト等化の条件(a~eのいくつかが満たされない関連づけは「対応づけ」と呼ぶ場合もある)

- a. 測定対象となる構成概念が同一であること
- b. 信頼性が等しいこと
- c. 対称性が保たれていること
- d. どちらのテストを受けても同等であること
- e. 母集団不変であること

| 等化の方法 | 概要 | メリット | 課題 |
|-------------------|---|--|---|
| 項目反応理論(IRT)における等化 | <ul style="list-style-type: none"> ・同一の能力を測定する複数のテスト結果を、相互に比較可能な得点(数値)で表すことができる共通の尺度を作成する方法。 ・測定すべき集団の能力分布の性質あるいは測定対象となる心理特性の分布の性質(受検者の能力)と測定用具としてのテスト(問題項目)の性質を分離して扱うため、きわめて自由度の高い等化が可能。 | CBTと組み合わせれば <ul style="list-style-type: none"> ・複数のテスト間の結果の比較を容易にする。 ・測定精度をきめ細かく確認できる。 ・平均点をテスト実施前に制御できる。 ・受検者毎に最適な問題を瞬時に選び、その場で出題できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大量の項目プールの作成が必要であるため、IRTが適用可能な項目を継続的に供給し、項目プールを維持していく必要がある。 |
| 等パーセンタイル等化法 | <ul style="list-style-type: none"> ・2つのテストの得点の累積分布を比較することにより、一方の得点を同じ累積パーセントになる他方の試験の得点に変換する方法(テストXの得点分布をテストYの得点分布に変換するものであり、スコア分布の形まで一致させることを目指している)。 ・結果として2つのテストのパーセンタイル順位が等しくなるように等化する方法。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2つのテストの得点分布に関係なく等化が可能。線形等化法と異なり、上限と下限の素点を越える心配はなく、最高点・最低点がテスト間で対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・受検者の得点が低得点から高得点まで幅広く分布している必要がある。 ・あるテストから別のテストへ等化した場合、元のテストの最高点は移行するテストの最高点を越えることができない。 ・大規模試験においては等パーセンタイル等化法が行えるシステムが必要(手作業では限界がある)。 |
| 線形等化法 | <ul style="list-style-type: none"> ・2つのテストの得点分布の形が同じであり、平均と標準偏差のみが異なると仮定し等化する方法(線形変換によって、テストXの平均と標準偏差をテストYの平均と標準偏差に揃えるもの)。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2つのテストフォームの得点分布間に単純な仮定をおいて等化することが可能なため適用しやすい。 ・分布の形は等化後も変化しないため分布の裾部分で受検者の識別が等化後も可能。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2つのテストで分布の形が大きく違っている場合は、例えば難易度が高いテストで高得点を取った者がより強調されてしまう。 |

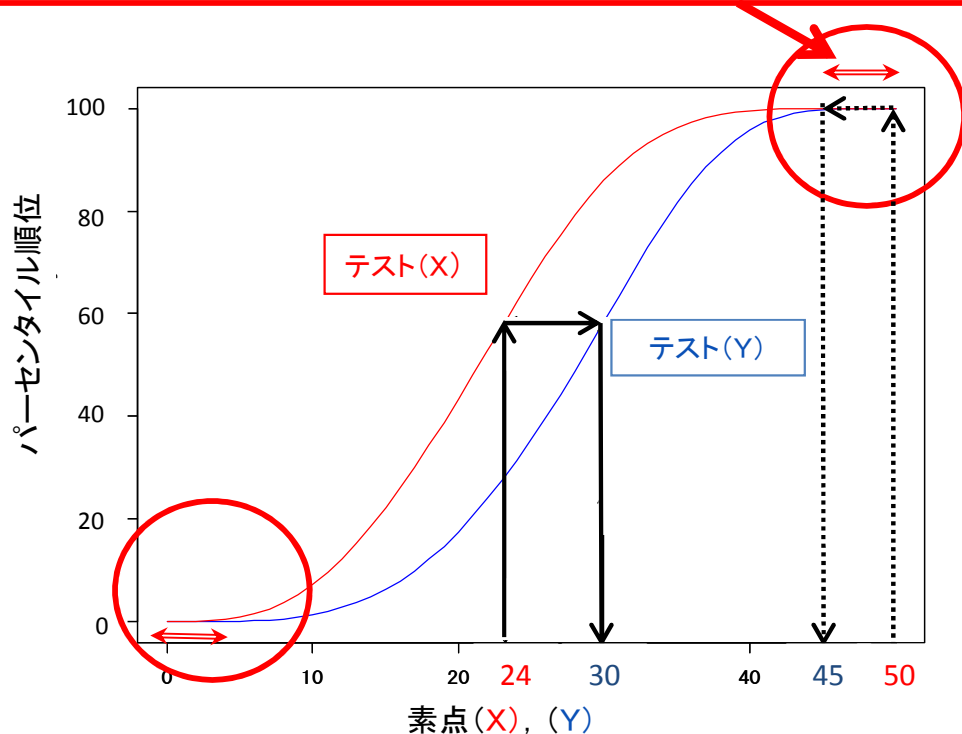
※等化には、①複数のテストのそれぞれの受検者集団が同じ母集団からの確率標本であること、②複数のテストの中に共通な下位テスト(係留テスト: anchor test)が含まれている、③複数のテストを2つ以上受けた共通の受検者集団が存在するのいずれかの条件を満たしたデータが必要

等化の代表的な方法（イメージ）

等パーセンタイル等化法のイメージ

【等パーセンタイル法の課題】

- ・パーセンタイルをもとに等化するため、あるテストから別のテストへ等化した場合、元のテストの最高点は移行するテストの最高点を越えることができない（逆も同じ）ため、分布の裾の部分での受検者の識別が難しくなる。
- ・図で言えば、テストYの点数を等化の目標とした場合、テストXの最高得点が50点であっても、テストYの最高得点が45点であれば、等化後の得点は45点以上にはなり得ない。



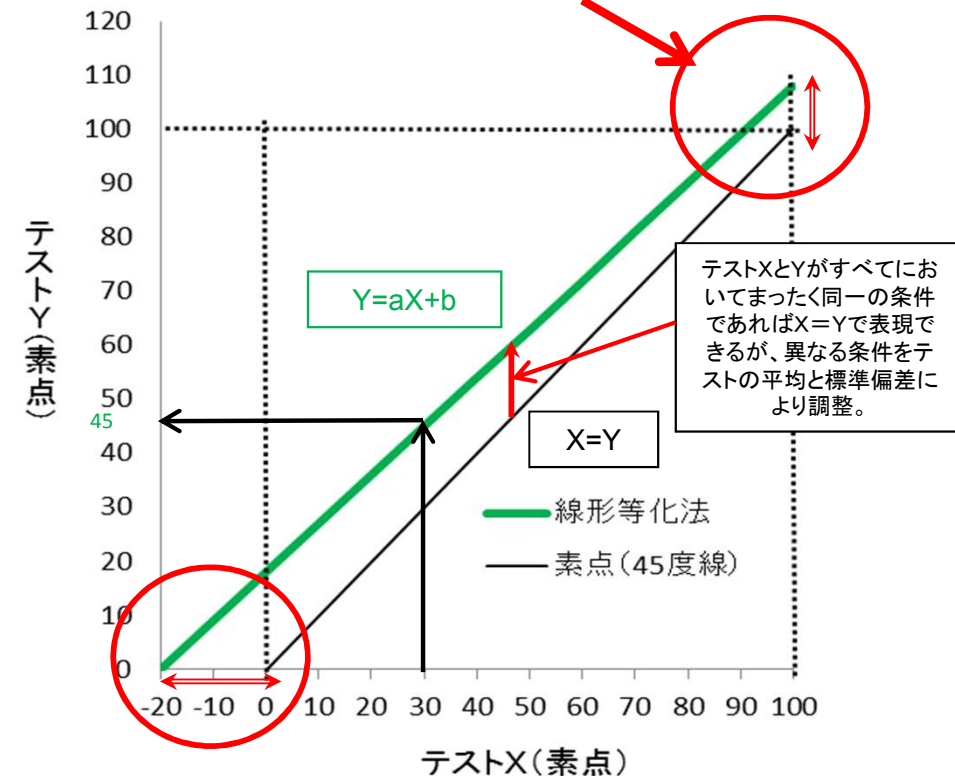
【等パーセンタイル法(図)について】

- ・テストXとテストYのそれぞれの素点に対応するパーセンタイル順位をグラフ化したもの。図のように、テストXで24点をとった受検者のパーセンタイル順位は58であり、これをテストYに当てはめると30点となる。したがって、テストXの素得点24点をテストYの素得点に等化すると30点になるということである。

線形等化法のイメージ

【線形等化法の課題】

- ・テストXとテストYの得点が互いに線形1次式で結ばれている、もとの分布の形は等化後も変化しないため、難易度が高いテストで高得点を取ったもの（逆も同じ）がより強調されてしまう。
- ・図で言えば、テストXの100点に対応するYの得点が110点になってしまうなど。



【線形等化法(図)について】

- ・素得点を線形変換することによって、テストXの平均と標準偏差をテストYの平均と標準偏差に揃えるもの。図のように、テストXの30点はテストYの45点に対応する。つまり、テストXの素得点30点はテストYの素得点に等化すると45点になるということである。

国の財政支援

(関連予算を含む)

グローバル化の進展や生産年齢人口の急減など、社会の変化

新しい時代に必要となる資質・能力

厳しい時代を乗り越え、新たな価値を創造していくためには、知識量だけでなく「**真の学ぶ力**」(※)が必要

※「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の三要素から構成される力

多様な背景を持つ子供たち一人一人が、それぞれの夢や目標の実現に向けて学び努力した**積み重ねを、しっかりと受け止めて評価し、社会で花開かせる**

学力の三要素を多面的・総合的に評価する**大学入学者選抜**

高大接続改革

主体的・協働的な学びなどを通じて「**真の学ぶ力**」を育成する**高等学校教育**

高等学校までで培った力を更に向上させ、社会へ送り出す**大学教育**

大学教育改革

入口から出口まで質保証を伴った大学教育の実現

● 大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」:15億円【拡充】

高等学校や社会との円滑な接続のもと、3つのポリシー(「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」)に基づき、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、各継続テーマにおける取組の強化を図るほか、新規テーマとして、卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みやその成果をより目に見える形で社会的に提示するための効果的な手法等を開発し、先導的なモデルとなる取組を支援する。

大学入学者選抜改革

先進的評価手法の共同開発

● 大学入学者選抜改革推進委託事業:3億円【新規】

大学入学者選抜における「思考力等」や「主体性等」の評価の推進に向け、大学入学者選抜改革を進める上での課題についての調査・分析と、「思考力等」や「主体性等」をより適切に評価する新たな評価手法の調査研究について、受託機関と協力大学が協働して取り組む。

- ・ 人文社会分野、理数分野、情報分野の評価手法
- ・ 面接や書類審査等教科・科目によらない評価手法

共通テスト改革

● 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」フィージビリティ検証事業:1.4億円【拡充】

平成32年度から実施する「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」について、十分な「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するためのモデル問題の作成のほか、記述式やCBTの導入等に向けた実証的な検討を行う。

高等学校教育改革

高等学校基礎学力テスト(仮称)の導入検討等

● 高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための研究開発事業:1.1億円【拡充】

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」の導入に向けて、学習指導体制や教材開発等とともに生徒の基礎学力の定着度等を把握して指導改善に活かすためのテスト手法等に関する研究開発

※ 上記のほか、各大学の入学者選抜改革等の取組を支援(国立大学法人運営費交付金:20億円、私学助成(私立大学等改革総合支援事業):10億円)

背景・課題

- 高大接続改革を実現するためには、高等学校教育と大学教育の接続面である大学入学者選抜において、「学力の3要素」(※)を多面的・総合的に評価し、大学教育における質の高い人材育成につなげていくことが重要。しかし現状では、各大学の入学者選抜において、「思考力等」や「主体性等」の把握、評価が十分に行われていない。

(※ 学力の3要素:①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

事業概要

「思考力等」や「主体性等」を評価する大学入学者選抜改革を効果的・効率的に推進するため、受託機関と協力大学の協働により、以下の調査研究を実施する。

- ① 各大学の入学者選抜改革における課題の調査分析及び分析結果を踏まえた改革の促進方策に関する調査研究
- ② 次期学習指導要領改訂(※)の方向性等も踏まえた「思考力等」をより適切に評価する教科・科目横断型・総合型の評価手法や、「主体性等」をより適切に評価する面接等の手法に関する調査研究

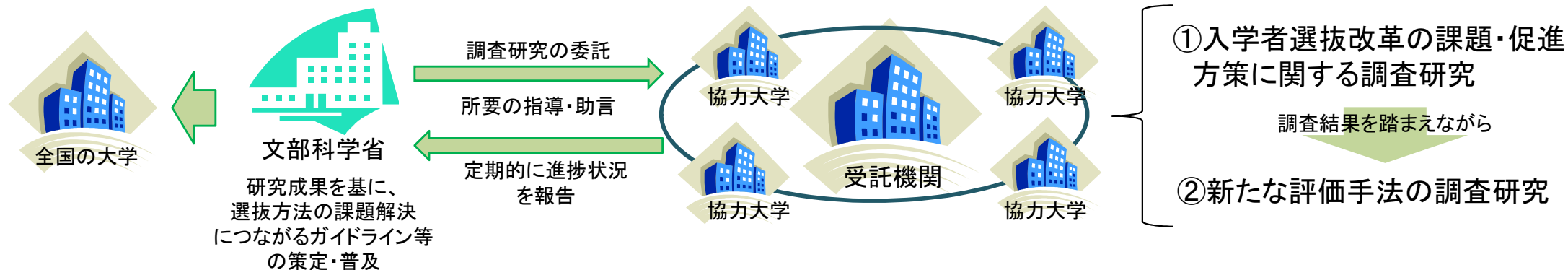
(※ 次期学習指導要領の下では、理数分野や情報分野の総合的・横断的内容の新科目の創設、地理歴史科・公民科の横断的観点からの見直し等が検討されている。)

(対象となるテーマ)

- 人文社会分野、理数分野、情報分野の評価手法 (各1件)
- 面接や書類審査等教科・科目によらない評価手法 (1件) 計4件

事業成果

- 大学入学者選抜の改革を進める上での具体的な課題・問題点の抽出、解決策、改革促進方策の提示
- 多面的・総合的な評価を推進する新たな評価手法の蓄積・普及



「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」フィージビリティ検証事業

平成28年度予定額 1.4億円
(平成27年度予算額 0.9億円)

1. 背景・目的

グローバル化の進展や生産年齢人口の急減など、今後厳しい時代を乗り越え、新たな価値を創造していくためには、大学入学者選抜において、十分な知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、「確かな学力」を多面的・総合的に評価する必要がある。

「知識・技能」を問う問題が中心の現
行の大学入試センター試験



十分な「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を導入するため、「高大接続システム改革会議」の議論を踏まえ、テストに係る作問イメージ（モデル問題）の作成や、それらの信頼性・妥当性について実証的な検討を行う。

2. 実施内容

1. 大学入試の過去問の分析
2. 新テスト試作問題の作成及びモニター調査の実施
3. 記述式やC B Tの導入等に向けた実証的な検討

3. 達成目標・成果

- 十分な「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するためのモデル問題の作成
- 実証的な検討を踏まえ、記述式やC B Tの導入等に向けたよりよい実施方法等を検証

「高大接続改革推進事業」

平成28年度予算額(案)15億円(平成27年度予算額12億円)

高等学校や社会との円滑な接続のもと、3つのポリシー(「アドミッション・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「ディプロマ・ポリシー」)に基づき、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、各継続テーマにおける取組の強化を図るほか、新規テーマとして、卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みやその成果をより目に見える形で社会的に提示するための効果的な手法等を開発し、先導的なモデルとなる取組を支援する。

平成28年度新規メニュー:テーマV 卒業時における質保証の取組の強化

●学修成果の質保証の仕組みの強化

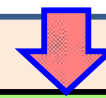
○客観的な評価の基準作り
(例)

- ・アセスメント・テストの開発
- ・学位プログラム内で共有できるルーブリックの開発、など

○卒業時の学修成果の客観的提示方法の開発
(例)

- ・卒業生の学修成果をより詳細に社会に提示するための書類(ディプロマ・サプレメント)の開発、など

卒業生の質保証に責任を持つ大学教育へと
抜本的に転換



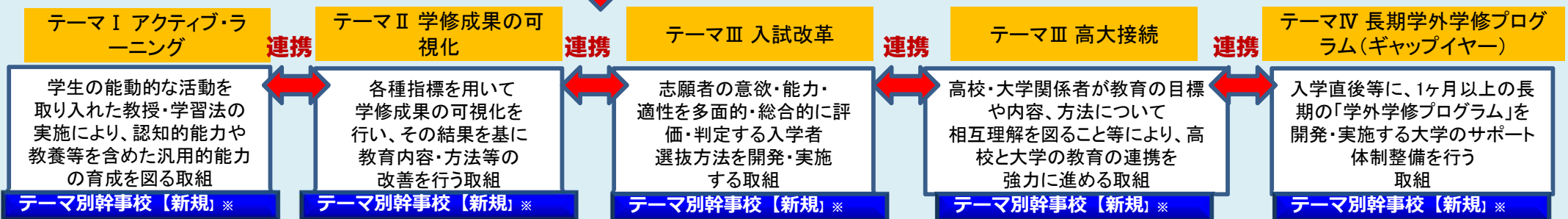
- 企業の採用時に大学教育の成果の評価をより重視する方向へ改善
- 社会における大学教育観の転換

●社会とのコミュニケーションの強化による教育の改善と学生の質保証

○学外の多様な人材との協働による助言・評価の仕組み作り
(必須) 高校や産業界等外部関係者を含めた助言評価委員会を設置

連携

テーマ別幹事校



継続支援テーマ ⇒ 取組を強化

※既採択校の中からテーマごとに幹事校を設定(必要経費を補助)し、情報発信の中核に。

文部科学省(有識者会議)

- 有識者会議を設置し、取組の進捗管理及び評価・分析
- 有識者会議の議論を経て、課題解決策の取りまとめ・普及

成果の発信

- テーマ別幹事校を中心に、全国の大学等に成果を発信・普及 ⇒ 高校や社会との円滑な接続のもと、入口から出口まで一貫した質保証の伴った大学教育の実現

私立大学等改革総合支援事業

平成28年度予算額(案) 201億円(201億円)

| | | |
|--------|-------|---------|
| 経常費 | 167億円 | (144億円) |
| 活性化設備費 | 23億円 | (46億円) |
| 施設・装置費 | 11億円 | (11億円) |

- 高等教育全体の質の向上には、大学の約8割を占める私学の改革支援が急務。
- このため、各タイプに対応した改革に全学的・組織的に取り組む大学等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費による一体的支援を実施。
- 教育の質的転換の取組について重点的に措置するとともに、高大接続改革に取り組む大学を追加的に支援(タイプ1)。また、大学の特色に応じて申請できるタイプ2～4も充実。
- 対象は、延べ670校程度を想定(各タイプ間の重複採択あり)。
- 3年間の事業実績を踏まえて、設備費を縮減する一方、経常費増額により採択校を拡充。

基本スキーム

タイプ2「地域発展」(160校)

地域社会貢献、社会人受入れ、生涯学習機能の強化等を支援

- 自治体との包括連携協定の締結
- 全学的地域連携センターの設置
- 地域社会と連携した地域課題解決のための教育プログラム 等

※三大都市圏(過疎地域は除く)にある収容定員8,000人以上の大学等は対象外。

タイプ3「産業界・他大学等との連携」(80校)

産業界や国内の他大学等と連携した高度な教育研究支援

- 教育面を含む産学連携体制の構築
- 長期インターンシップ
- 交流協定に基づく単位互換の実施・交流実績
- 教育プログラムの共同開発、共同研究、共同FD・SD 等

タイプ4「グローバル化」(80校)

国際環境整備、地域の国際化など、多様なグローバル化を支援

- 実践的な語学教育
 - 外国人教員・学生の比率
 - 地域のグローバル化への貢献 等
- ※必須要件 グローバル化対応ポリシーの策定。

タイプ1「教育の質的転換」(350校)

全学的な体制での教育の質的転換(学生の主体的な学修の充実等)を支援

＜評価する取組(例)＞

- 全学的教学マネジメント体制の構築
- シラバスの改善(主体的な学修を促す教育課程の編成)
- 学生の学習時間等の把握と充実
- 学生による授業評価結果の活用
- 外部組織と連携したproject-Based Learningの実施 等

+

高大接続改革に積極的に取り組む大学等を追加的に支援(新規)

＜評価する取組(例)＞

- 多面的・総合的な入試への転換
- 高等学校教育と大学教育の連携強化
- アドミッションオフィス等の組織改善
- 追跡調査など選抜方法の妥当性の検証 等

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と記述式問題イメージ例【たたき台】

ここに示す問題イメージ例は、記述式問題の出題に当たっての考え方の方針を示す趣旨で作成したものであり、大学入学者選抜の直接のモデル問題として検討したものではない。

(問題の難易度を含めた「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」としての具体的な作問の在り方については引き続き検討。)

〈例1〉

多様な見方や考え方が可能な題材に関する複数の図表や文章を読み、情報を統合しながら、考えを構成し表現する問題。

高等学校学習指導要領「国語総合」に関連する領域・内容

〔国語総合〕C 読むこと (1)指導事項

イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。

〔国語総合〕C 読むこと (2)言語活動

ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。

評価すべき具体的な能力との関係

〈この問題で評価しようとしている具体的な能力(主なもの)〉

エ) 目的に応じて必要な情報を見つけ出して文章や図表等の情報と統合し、比較したり関連づけたりする力

オ) 得た情報を基に、物事を推し量ったり予測したりする力

カ) 得た情報を基に、立場や根拠を明確にしながら、論理的に思考する力

ク) 能力の表中 ア)～キ)のプロセスで得た情報を構造化し、目的や意図を明確にし、構成や展開を工夫して表現する力

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と 記述式問題イメージ例【たたき台】 <国語>

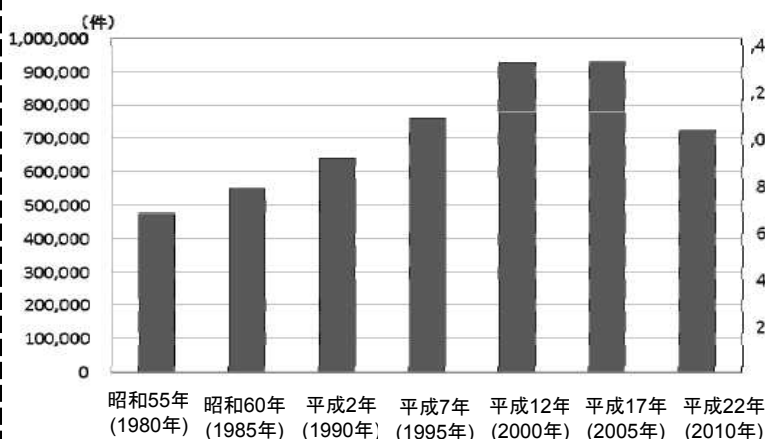
高大接続システム改
革会議(12/22)配付
資料より

問題イメージ<例1>

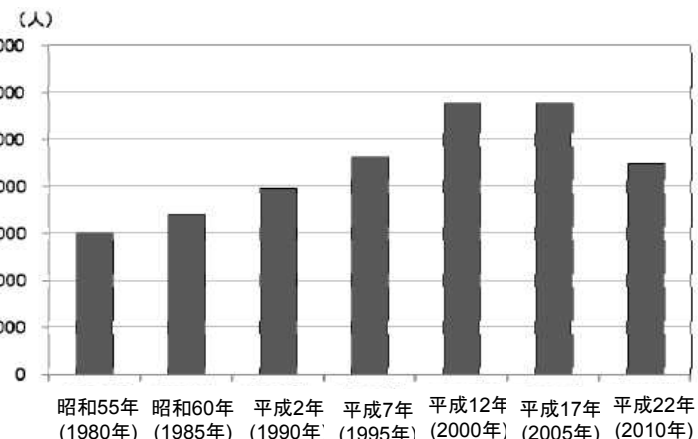
国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査(論理的な思考)」(平成24年2月実施)より一部改題

次の文章とグラフを読み、後の問いに答えよ。

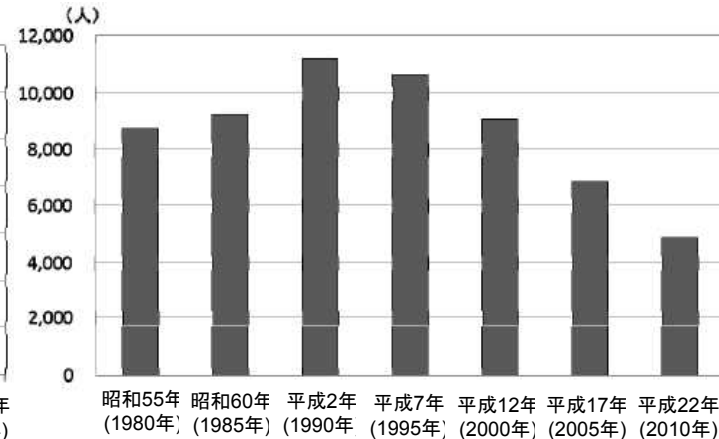
次に示すのは、警察庁事故統計資料に基づいて作成された交通事故の発生件数、負傷者数、死者数のグラフと、この3つのグラフを見て、交通事故の死者数が他よりも早く、平成2年(1990年)以降減少傾向になっていることについて、4人の高校生が行った話し合いの一部である。



グラフ1: 交通事故の発生件数



グラフ2: 交通事故の負傷者数



グラフ3: 交通事故の死者数

Aさん: 交通事故の死者数が他よりも早く、平成2年(1990年)以降減少傾向になっているのは、交通安全に関する国民の意識の変化が関係しているのではないかと思います。

その裏付けとなる資料として、「交通違反で検挙された人数の推移が分かる資料」があると思います。その資料を見れば、飲酒運転やスピード違反など、死亡事故につながるような重大な違反の割合が少なくなっていることが分かるはずです。

Bさん: 私は、この30年間で販売されてきた自動車の台数と安全性に関係があると思います。

(a) つまり、自動車の台数は年々増加し続けているので事故件数と負傷者数はなかなか減らなかったけれども、ア ア ということです。

例えば、最近30年間における、「車の総販売台数の推移が分かる資料」と、「車の安全に関する装置の装備率の推移が分かる資料」があれば、このことを裏付けることができると思います。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と 記述式問題イメージ例【たたき台】〈国語〉

高大接続システム改
革会議(12/22)配付
資料より

Cさん: 私は、交通事故の死者数が平成2年(1990年)以降減少傾向になっているのには、医療の進歩がかかわっていると思います。交通事故にあつて救急車で運ばれ一命を取り留めた人が、搬送先の病院で、「以前であれば助からなかった」と医師に言われたという話を聞いたことがありました。どうということかという、昔は事故にあつて助からなかった命が助かるようになってきたので、事故の数は増えても亡くなる人は減り続けてきたのではないかと思います。

その裏付けとなる資料として、例えば、交通事故における救急車の出動回数の推移と救命率の推移が分かる資料が考えられます。その資料を見れば、

イ

のではないのでしょうか。

Dさん: 私は、みなさんの意見を聞いて、次のように話し合いの内容を整理してみました。

Aさん、Bさん、Cさんは、3人とも、3つのグラフを比べて1つのグラフだけが異なる傾向を示している現象に着目し、その要因について仮説を立て、その根拠として考えられる資料を挙げて、その資料から推測される内容を述べられました。これから、皆さんの仮説を検証するための検討や資料収集をしていきましょう。(以下、省略)

問1 Bさんは、下線部(a)「つまり」以下で、どのような内容を述べることになるか。

空欄 に当てはまる適切な内容を40字以内で書きなさい(句読点を含む。)

問2 空欄 でCさんはどのように発言したでしょうか。あなたが考える内容を、80字以上、100字以内で書きなさい(句読点を含む。)

<解答例>

問1 ア 自動車の安全性が向上してきたので、死者数は減ってきた(26字)

問2 イ 救急車の出動回数については交通事故の発生件数や負傷者数とほぼ同様に上昇傾向で推移しているのに対し、救命率については死者数の推移とは逆に上昇傾向で推移していることが分かる(84字)

ここに示す問題イメージ例は、記述式問題の出題に当たっての考え方の方針を示す趣旨で作成したものであり、大学入学者選抜の直接のモデル問題として検討したものではない。

（問題の難易度を含めた「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」としての具体的な作問の在り方については引き続き検討。）

〈例4〉

事象から問題解決に必要な情報や条件を抽出・収集したり、仮定をおいて考えたりする問題。

高等学校学習指導要領「数学Ⅰ」に関連する領域・内容

〔数学Ⅰ〕（2）図形と計量

三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。

イ 図形の計量

三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。

評価すべき具体的な能力との関係

〈この問題で評価しようとしている具体的な能力（主なもの）〉

- ア) 問題文・図形等の事象やその数学的表現から情報を読み取る力
- イ) 事象から問題解決に必要な情報や条件を抽出・収集したり、仮定をおいて考えたりする力
- ウ) 情報を整理・統合して問題解決の方針を立てる力
- エ) 関係や命題等を、適切な数学的表現を用いて表す力
- オ) 数学の知識や技能を用いて論理的に考察・処理して結果を得る力

問題イメージ〈例4〉

次の問いに答えよ。

伊藤さんは、「スーパームーン」に関する記事を読み、月が地球から最も離れたときに見える満月と比べて、記事にあるような「スーパームーン」はどのくらい大きく見えるのかを知りたくなり、月の見かけ上の大きさについて調べた。



夜空に浮かぶ大きな満月「スーパームーン」

月が地球に最も近づくタイミングと満月のタイミングが重なるため、月が通常より大きく見える。

(平成27年(2015年)9月28日 記事)

〈伊藤さんの調べたこと〉

○月の見かけ上の大きさは、見えている月を円と考えて、その直径の両端と視点とを結ぶ二等辺三角形の頂角である「視直径」で表す。

○「スーパームーン」の視直径はおよそ33分(ふん)、月が地球から最も離れたときの満月の視直径はおよそ29分である。

ただし、1分は 1° の $\frac{1}{60}$ である。

(1) 伊藤さんは、次の方法で満月を観測し、フィルムに円を描いて比べてみることにした。

<伊藤さんの方法>

視点から月の中心に向かって500mmの位置に、月の中心と視点を結ぶ直線
に対して垂直になるように透明なフィルムを置く。そして、このフィルムを通して
見える月をフィルムに写し取る。

伊藤さんの方法でフィルムに写し取られる、視直径 θ 分(ふん)の月の直径は何mmになるか。この直径を求める式を三角
比を用いて答えなさい。

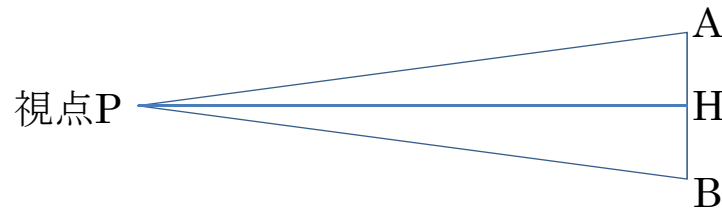
<解答例>

(1) $1000 \tan\left(\frac{\theta}{2}\right)'$ (mm) または $1000 \tan\left(\frac{\theta}{120}\right)^\circ$ (mm)

(考え方)

下の図の $\triangle PAH$ で $PH=500$ (mm)で、 $\angle APH = \left(\frac{\theta}{2}\right)' = \left(\frac{\theta}{120}\right)^\circ$ なので、

$AH = 500 \times \tan\left(\frac{\theta}{2}\right)'$ または $AH = 500 \times \tan\left(\frac{\theta}{120}\right)^\circ$



よって、直径は $1000 \tan\left(\frac{\theta}{2}\right)'$ (mm) または $1000 \tan\left(\frac{\theta}{120}\right)^\circ$ (mm)

※(1)の解答例では、1分を1'と表記している。

ここに示す問題イメージ例は、記述式問題の出題に当たっての考え方の方針を示す趣旨で作成したものであり、大学入学者選抜の直接のモデル問題として検討したものではない。

（問題の難易度を含めた「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」としての具体的な作問の在り方については引き続き検討。）

〈例3〉

歴史資料をよみとき、複数の歴史事象を関連付けながら、多面的・多角的に考察して仮説を設定し、論拠に基づいてその適否を判断する問題。

高等学校学習指導要領「世界史B」に関連する領域・内容

〔世界史B〕（4）諸地域世界の結合と変容

ア アジア諸地域の繁栄と日本

西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解させる。

イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界

ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。

ウ 産業社会と国民国家の形成

産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。

オ 資料からよみとく歴史の世界

主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。

評価すべき具体的な能力との関係

＜この問題で評価している具体的な能力(主なもの)＞

- ア) 歴史資料をよみとき、歴史に関する重要な情報を取り出す力
- イ) 資料(文字資料・絵画・写真・歴史地図)と歴史上の事象との関わりを推論する力
- エ) 歴史上の出来事や事象の因果関係、歴史上の出来事と現在との関係を多面的・多角的に考察する力
- オ) 日本を含む世界の歴史の複合性や関連性を理解する力

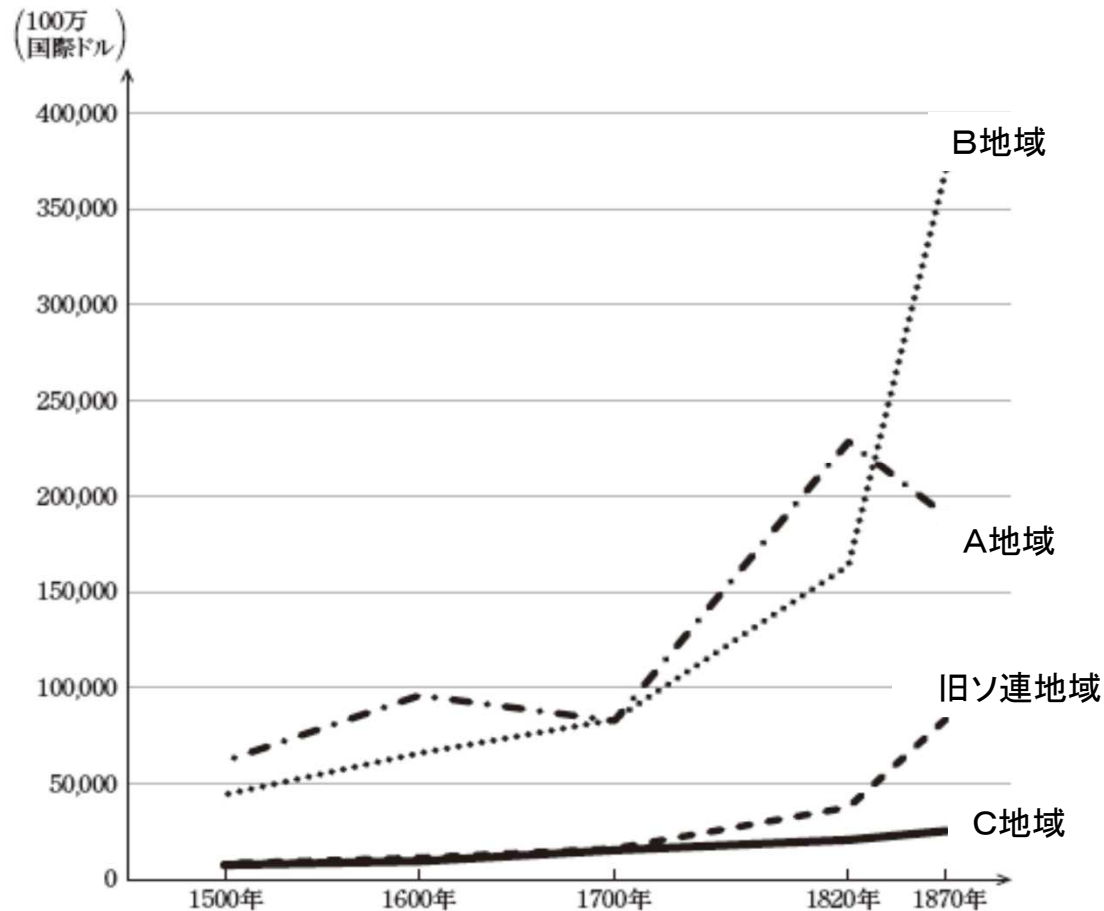
既存の問題とどのような観点で異なるのか

- 問1・問2 異なる地域の長期変動に関する歴史資料をよみといたうえで、関連する出来事を多面的・多角的に考察する必要がある点。また、正答選択肢が一つに限られず、複数存在する点。
- 問3・問4 歴史的事象に関する仮説を立てて話し合う場面において、その仮説を裏付ける論拠を問う点。

問題イメージ<例3>

第1問

次の図は、『経済統計で見る世界経済2000年史』（アンガス・マディソン著）に掲載されている数値をグラフ化したものである。日本・中国・西欧・旧ソ
ヴィエト連邦（旧ソ連）にあたる各地域の経済規模（GDP）の長期的な傾向を把握するために、16世紀までさかのぼって推計している。グラフと注を読
んだうえで、I、IIの問いに答えよ。



注1 「西欧」、「旧ソ連」というまとめ方は、マディソンの著書によっている。

注2 GDP数値は、主として一人あたり産出額に人口規模を掛け合わせて算出した概算値を用いている。
また、国際ドルとは、異なる通貨単位を計量するために使われる単位である。

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力と マークシート式の問題イメージ例【たたき台】 <世界史>

高大接続システム改
革会議(2/17)配付
資料より

I 16世紀に4地域中で最大の経済規模をもっていたA地域のGDPは、17世紀の落ち込みののち、18世紀に増加している。それらの背景となる政治・経済・社会の動きについて、下の問いに答えよ。

問1 次の①～⑧のうち、A地域の変動について述べた文として適切なものをすべて選べ。

- ①16世紀にはこの地域の人々がアメリカ大陸を含む世界各地に進出し、世界の貿易・商業を活発化させた。
- ②16世紀には日本やシベリアなどの銀が大量に流入して経済が活性化したが、遊牧民や海賊の侵攻に苦しんだ。
- ③17世紀には大規模な農民反乱や、東北から侵攻した異民族王朝への抵抗戦争などによって、人口が減少したと考えられる。
- ④17世紀には、宗教対立や王位継承紛争もからんで各地で不況や戦乱・社会的迫害が生じた。その背景には地球の寒冷化もあった。
- ⑤18世紀には急激な人口増に農業集約化や商工業の発展が追いつかず、辺境部の開発や海外への移民が活発化した。
- ⑥18世紀には租税が銀納化される一方、人頭税が廃止され、経済成長にもつなげた。
- ⑦18世紀には輸出が低迷するが、その一方で国内の商業・手工業が発展し輸入品の国産化にも成功したので、全体として外国貿易に依存しない経済の仕組みが成立した。
- ⑧18世紀には農業技術が向上して大規模な農業生産・経営が可能になったため、競争に敗れ土地を失った農民は都市に流入して、工場労働者となった。

<正答>

問1 ③, ⑤

ここに示す問題イメージ例は、記述式問題の出題に当たっての考え方の方針を示す趣旨で作成したものであり、大学入学者選抜の直接のモデル問題として検討したものではない。

（問題の難易度を含めた「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」としての具体的な作問の在り方については引き続き検討。）

〈例1〉

観察・実験から得られたデータを解釈し、見通しをもって新たな実験を計画し、グラフを描いて結果を推論する問題。

高等学校学習指導要領「物理基礎」「物理」に関連する領域・内容

〔物理基礎〕

(1) 物体の運動とエネルギー

ウ 力学的エネルギー

(ア) 運動エネルギーと位置エネルギー

運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解すること。

(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用

ア 熱

(イ) 熱の利用

熱の移動及び熱と仕事の変換について理解すること。

ウ 電気

(イ) 電気の利用

交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解すること。

カ 様々な物理現象とエネルギーの利用に関する探究活動

様々な物理現象とエネルギーの利用に関する探究活動を行い、学習内容の理解を深めるとともに、物理学的に探究する能力を高めること。

〔物理〕

(2) 波

ウ 光

(ア) 光の伝わり方

光の伝わり方について理解すること。

※解答に当たって必要となる地学の知識は問題文で示しているため、「地学基礎」を学んでいなくても解答可能。

問題イメージ<例1>

第1問

理科の探究活動で、ヒロシさんとカズエさんは、太陽光のエネルギーについて、いろいろ実験してみることにした。

二人はさらに探究を続けることにした。

カズエ:この日射量計を使って、何とかして太陽定数の大きさを求めることはできないかな?

ヒロシ:いろいろな太陽高度のときに日射量計を太陽に向けて直達日射量を測定し、グラフを描いて考えてみたらどうだろう。下のような図を使って説明すると、太陽高度が θ のとき、太陽光が大気中を通過した距離は、大気の厚さを1とすると、 $1/\sin\theta$ となるね。ここでは、仮に、太陽光のエネルギーは大気を通過した距離に比例して減衰するとして考えてみよう。

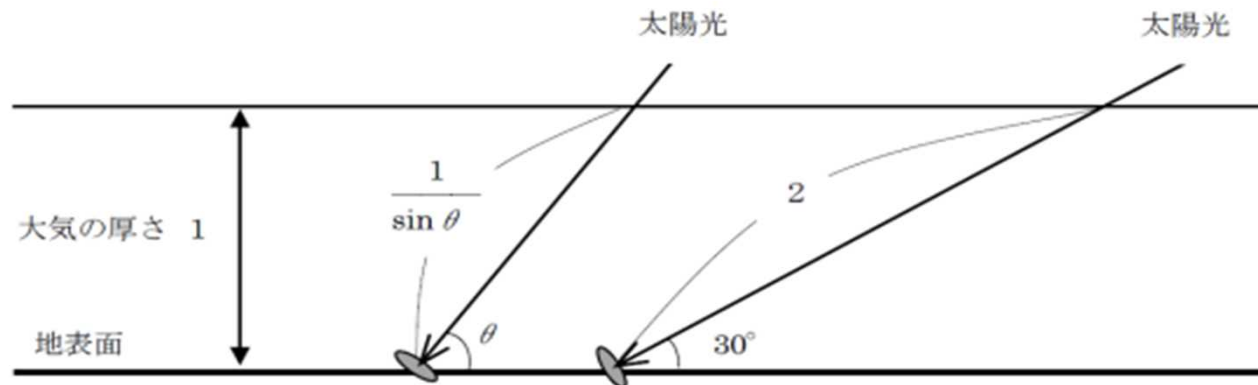


図4 ヒロシさんが使った説明図

二人は、快晴の日に、いろいろな太陽高度で直達日射量を測定し、得られたデータを表1にまとめた。そして、このデータからグラフを作成して太陽定数を推定することにした

表1 測定から得られたデータ

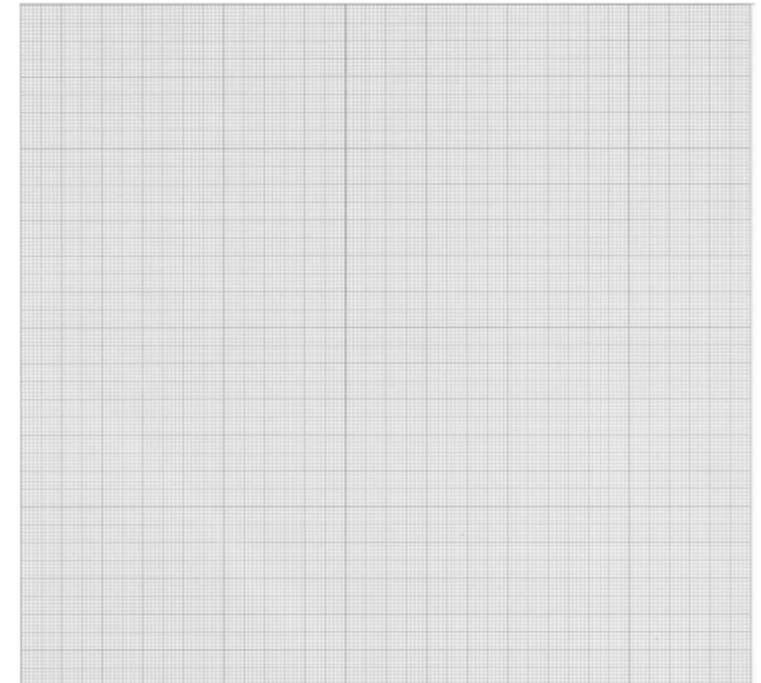
| ※ 時刻 | ※ 太陽高度 θ | $1/\sin\theta$ | 気温 | 直達日射量 単位: kW/m ² |
|-------|-----------------|----------------|---------|--------------------------------|
| 12:20 | 69° | 1.07 | 21.5 °C | 0.92 |
| 13:57 | 58° | 1.18 | 23.0 °C | 0.89 |
| 14:30 | 52° | 1.27 | 23.0 °C | 0.87 |
| 15:02 | 46° | 1.39 | 22.5 °C | 0.84 |

※ 時刻と太陽高度 θ は、日射量計で水温の変化を読み取った4分間の中央値を示す。

問5 表1から必要なデータを抽出してグラフを作成し、ヒロシさんが考えたような仮定に基づいて推定される太陽定数を有効数字2桁で表すとき、次式の 12 ~ 14 の中に入る数字として最も適当なものを、下の①~⑬のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

$$\text{推定される太陽定数} = \boxed{12} . \boxed{13} \times 10^{\boxed{14}} \text{ kW/m}^2$$

- ① 1 ② 2 ③ 3 ④ 4 ⑤ 5 ⑥ 6 ⑦ 7
⑧ 8 ⑨ 9 ⑩ 0 ⑪ -1 ⑫ -2 ⑬ -3



<正答>

問5: 12=① 13=② 14=⑩

1.2×10^0